

令和3年度

新宿区区民意識調査

要約版

令和4年1月
新宿区

はじめに

新宿区では、基本構想に掲げる『新宿力』*で創造するやすらぎとにぎわいのまちの実現をめざし、さまざまな施策を実施しています。

施策を進めるうえで、区民の皆さまのご意見・ご要望を的確に把握していくことが必要です。そのため、区では、意識調査をはじめ、対話集会やモニター制度、区長へのはがきなどの広聴活動を行っています。

今回の意識調査では、毎年お聴きしている「居住意向」「生活における心配事」「区政への要望」などのほか、「震災対策」「新宿区のみどり」と新宿中央公園」について伺いました。

この調査の結果については、よりよい区政運営のための基礎資料として活用してまいります。

併せて、この調査報告書を多くの地域の皆さまに参考としてご活用いただければ幸いです。

おわりに、この調査にご協力くださいました区民の皆さまに、心よりお礼申し上げます。

令和4年1月

新宿区 総合政策部 区政情報課 広聴係

(*)『新宿力』とは、新宿区に住む人々はもとより、新宿区で働き、学び、活動する多くの人々による「自分たちのまちは、自分たちで担い、自分たちで創りあげたい」という、《自治の力》を象徴的に表したものです。

目 次

調査実施の概要	2
調査回答者の属性	3
調査結果の分析	
1 居留意向	11
2 生活における心配事	12
3 区政への関心	15
4 区政情報の入手方法	17
5 区政への要望	18
6 区政情報の発信	20
7 選挙	21
8 震災対策	22
9 新宿区のみどりと新宿中央公園	28

要約版の見方

- (1) 集計は、小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数（n）は、設問に対する回答者数である。
- (3) 基数が少なく（30以下など）、標本誤差が大きいと考えられる場合には、参考として結果を図示している。
- (4) 回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出している。したがって、複数回答の設問はすべての比率を合計すると100.0%を超えることがある。
- (5) 複数の選択肢をあわせた項目の回答の比率（%）は、その選択肢の選択者数を基数で除して算出している。したがって、各選択肢の比率を足し上げた数値と差が生じることがある。
- (6) 本文や図表中の選択肢表記は、場合によっては語句を短縮・簡略化している。
- (7) この区民意識調査では、統計数値を考察するにあたり、表現を以下のとおりとしている。

例	表現
80.1～80.9%	約8割
81.0～82.9%	8割強
83.0～84.9%	8割台半ば近く
85.0～85.9%	8割台半ば

例	表現
86.0～87.9%	8割台半ばを超え
88.0～88.9%	9割近く
89.0～89.9%	9割弱

- (8) この区民意識調査の結果をみる場合に、考慮すべき統計上の誤差がある。考慮すべき誤差（標本誤差）の大きさは、「回答者数（標本数）が少ないほど大きく」、また、「回答比率が50%に近いほど大きく」なる。（詳細は、報告書参照）

調査実施の概要

1 調査目的

新宿区の区政運営の基本となる重要な課題に対する区民の意向・要望及び区民の生活意識等を把握し、今後の区政運営に反映させるための基礎資料とする。

2 調査設計

- (1) 調査地域 新宿区全域
- (2) 調査対象 新宿区在住の満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 2,500人
- (4) 標本抽出 住民基本台帳からの層化抽出法による無作為抽出
(※住民基本台帳法改正に伴い、平成24年度から外国人住民を含む)
- (5) 調査方法 郵送配布、郵送またはインターネットによる回収
(はがきによる予告・再依頼を各1回)
- (6) 調査期間 令和3年7月5日(月)～7月26日(月)
(※調査期間後に郵送回収した調査票については、できる限り調査に反映させた)
- (7) 調査機関 株式会社 都市計画21

3 回収結果

- (1) 標本数 2,500人(日本国籍 2,231人 外国籍 269人)
- (2) 有効回収数 1,267人(日本国籍 1,167人 外国籍 76人 無回答 24人)
- (3) 有効回収率 50.7%(日本国籍 52.3% 外国籍 28.3%)

【回収方法別内訳】

回収方法	有効回収数	構成比
郵送	787人	62.1%
インターネット	480人	37.9%
合計	1,267人	100.0%

4 調査内容

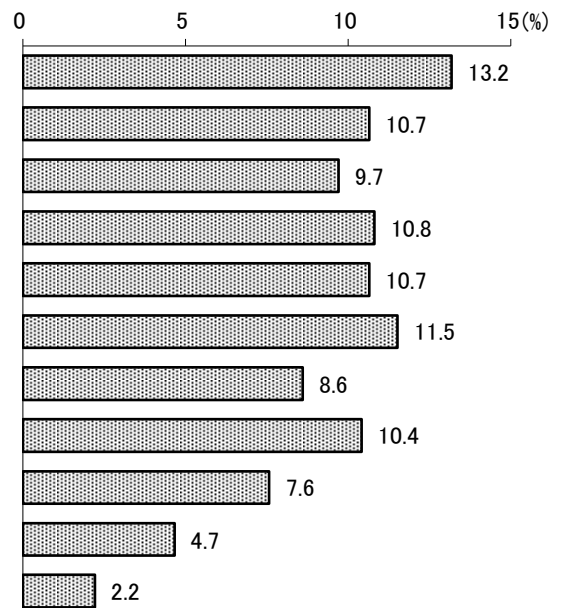
令和3年度 新宿区区民意識調査は、次の項目について調査した。

	<調査項目>	<問番号>
経年調査項目	・居留意向 ・生活における心配事 ・区政への関心 ・区政情報の入手方法 ・区政への要望 ・区政情報の発信 ・選挙	(問1～問2-1) (問3) (問4～問4-2) (問5) (問6) (問7) (問8～問8-2)
特集調査項目	・震災対策 ・新宿区のみどりと新宿中央公園	(問9～問13) (問14～問22)

調査回答者の属性

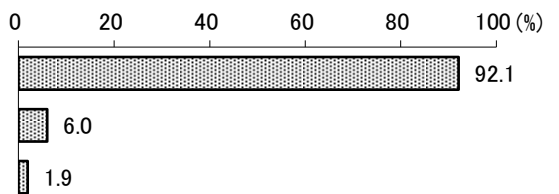
1 居住地域別

	基数 (人)	国籍別(人)		構成比 (%)
		日本	外国	
1 四谷	167	156	11	13.2
2 簗笥町	135	133	2	10.7
3 榎町	123	115	7	9.7
4 若松町	137	127	9	10.8
5 大久保	135	121	13	10.7
6 戸塚	146	134	11	11.5
7 落合第一	109	103	6	8.6
8 落合第二	132	126	5	10.4
9 柏木	96	85	8	7.6
10 角筈・区役所	59	57	2	4.7
(無回答)	28	10	2	2.2
合 計	1,267	1,167	76	100.0



2 国籍別

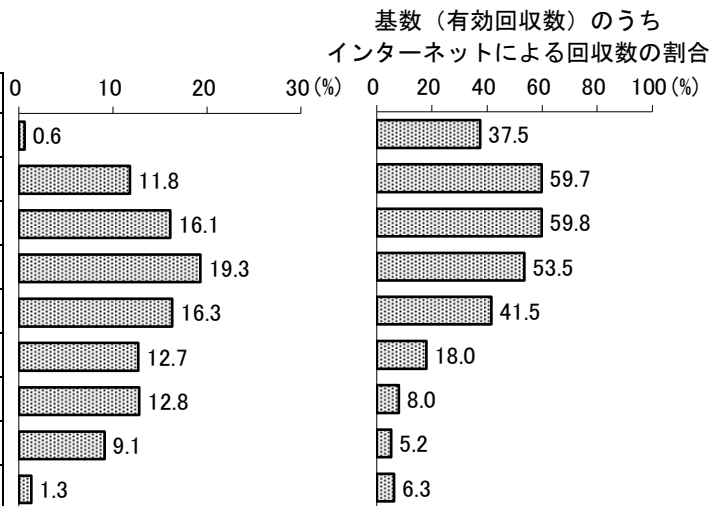
	基数 (人)	構成比 (%)
1 日本	1,167	92.1
2 日本以外	76	6.0
(無回答)	24	1.9
合 計	1,267	100.0



3 性別・年代別

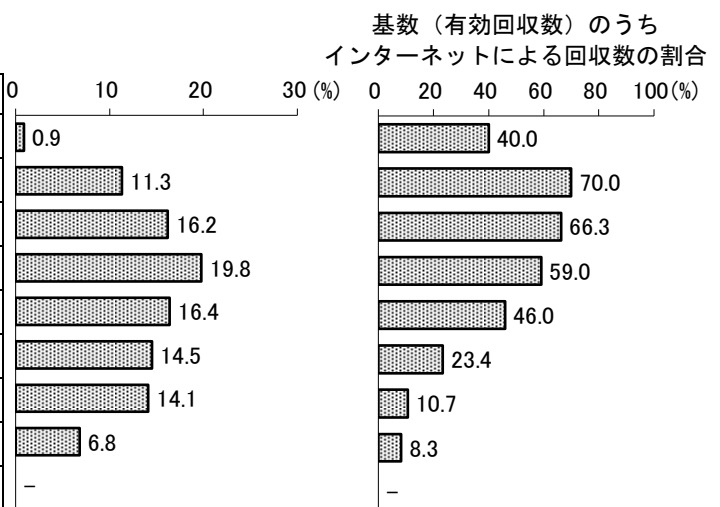
(1) 全体

	基数 (人)	構成比 (%)
1 10歳代	8 (-)	0.6
2 20歳代	149 (19)	11.8
3 30歳代	204 (23)	16.1
4 40歳代	245 (16)	19.3
5 50歳代	207 (6)	16.3
6 60歳代	161 (6)	12.7
7 70歳代	162 (2)	12.8
8 80歳以上	115 (4)	9.1
(無回答)	16 (-)	1.3
総 数	1,267	100.0



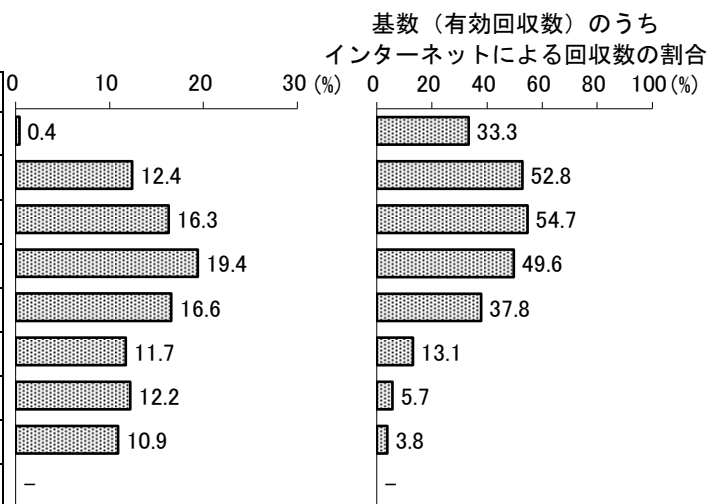
(2) 男性

	基数 (人)	構成比 (%)
1 10歳代	5 (-)	0.9
2 20歳代	60 (6)	11.3
3 30歳代	86 (12)	16.2
4 40歳代	105 (7)	19.8
5 50歳代	87 (1)	16.4
6 60歳代	77 (2)	14.5
7 70歳代	75 (1)	14.1
8 80歳以上	36 (1)	6.8
(無回答)	- (-)	0.0
総 数	531	100.0



(3) 女性

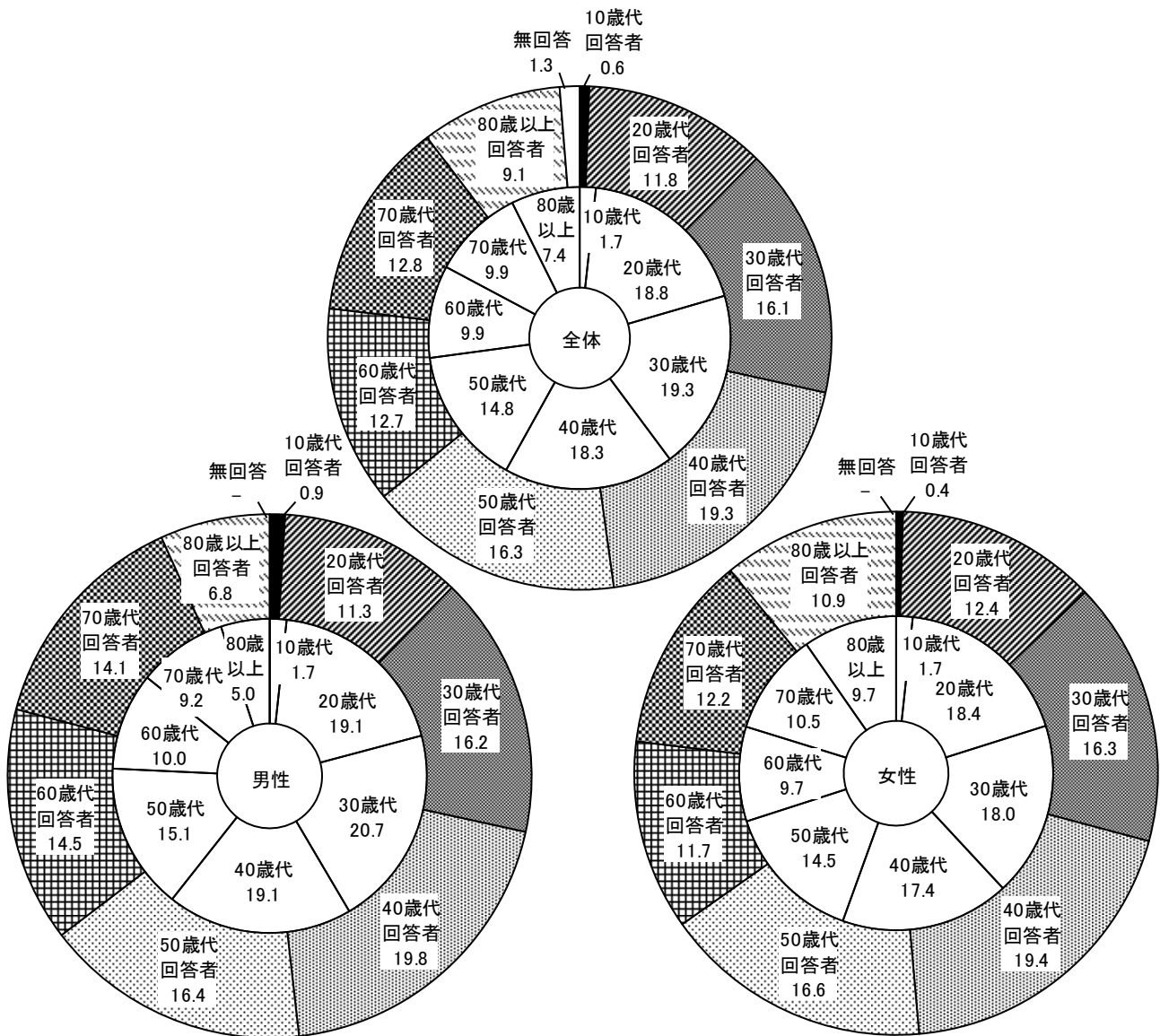
	基数 (人)	構成比 (%)
1 10歳代	3 (-)	0.4
2 20歳代	89 (13)	12.4
3 30歳代	117 (11)	16.3
4 40歳代	139 (9)	19.4
5 50歳代	119 (5)	16.6
6 60歳代	84 (4)	11.7
7 70歳代	87 (1)	12.2
8 80歳以上	78 (3)	10.9
(無回答)	- (-)	0.0
総 数	716	100.0



※ ()の中の数値は外国籍人数を表す。

性別で無回答が20人いるため、男女の人数を足しあわせても「全体」の人数と一致しない。

<母集団と調査回答者の構成比>

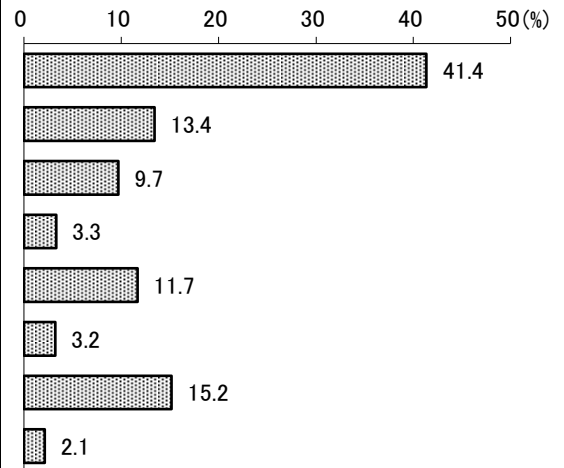


※内円は母集団18歳以上の人口 (N=298, 777) の構成比、外円は調査回答者 (n=1, 267) の構成比を示している。

4 職業別

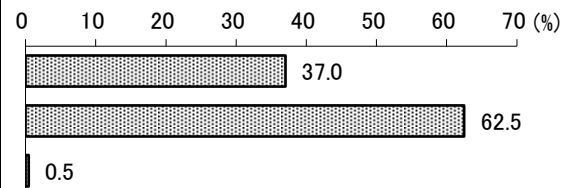
(1) 職業

	基数 (人)	国籍別(人)		構成比 (%)
		日本	外国	
1 会社員、公務員、 団体職員	524	488	32	41.4
2 パート・アルバイト・非常勤・ 嘱託・派遣など	170	158	10	13.4
3 自営業・自由業	123	115	6	9.7
4 学生	42	30	12	3.3
5 専業主婦・主夫	148	142	6	11.7
6 その他	41	37	4	3.2
7 無職	192	184	6	15.2
(無回答)	27	13	-	2.1
合計	1,267	1,167	76	100.0



(2) 職場や学校の所在地別

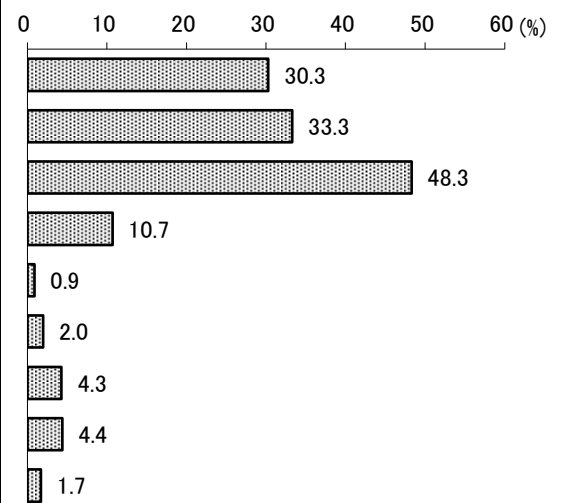
	基数 (人)	国籍別(人)		構成比 (%)
		日本	外国	
1 新宿区内	318	288	26	37.0
2 新宿区外	537	500	34	62.5
(無回答)	4	3	-	0.5
合計	859	791	60	100.0



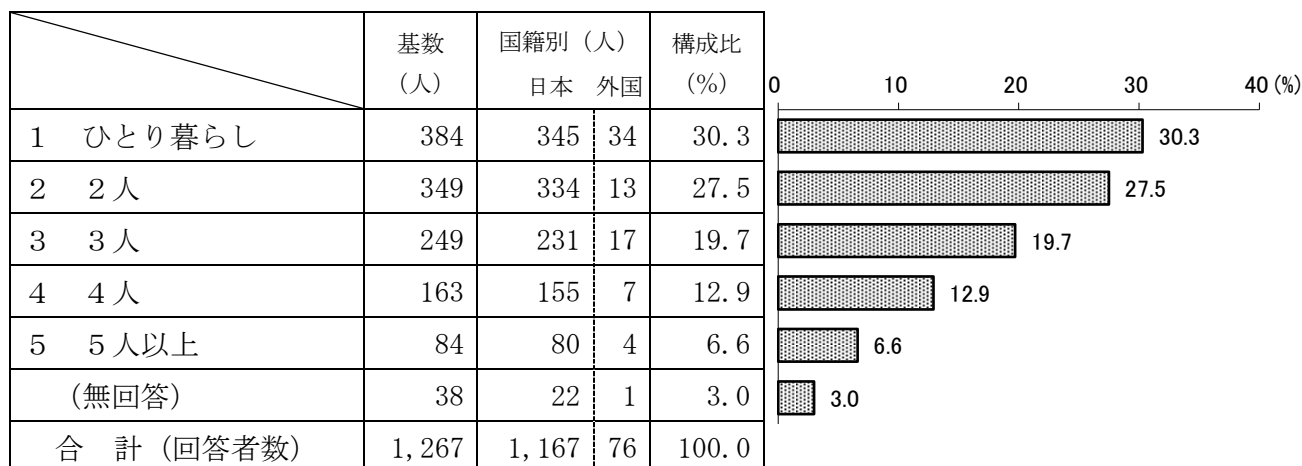
5 家族及びライフステージ別

(1) 同居者(複数回答)

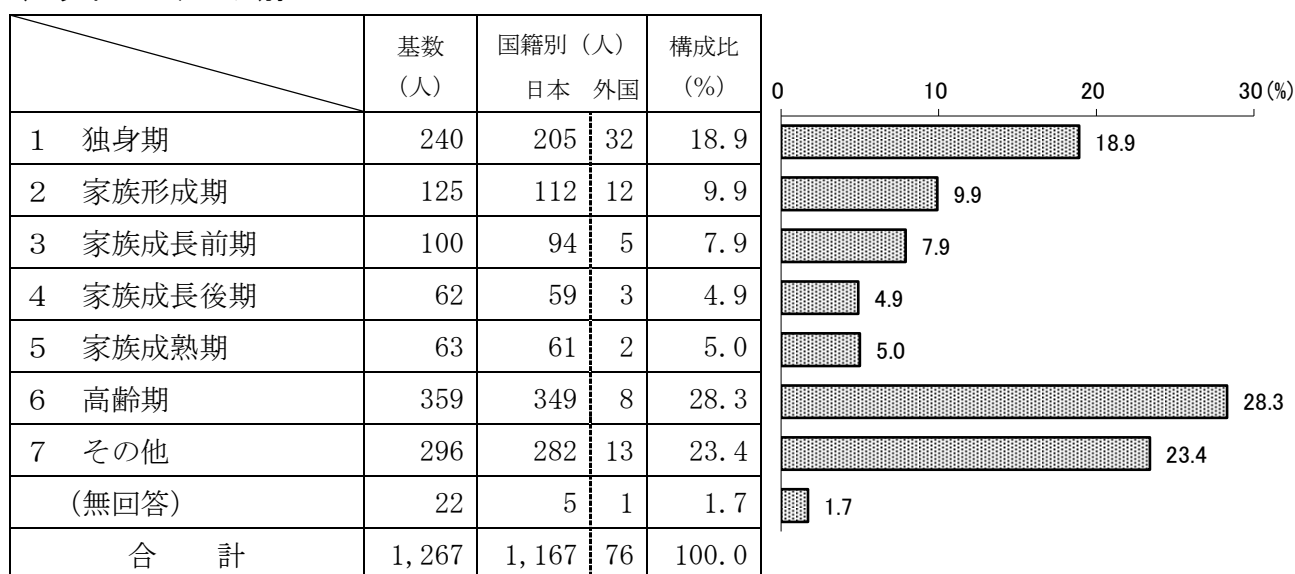
	基数 (人)	国籍別(人)		構成比 (%)
		日本	外国	
1 ひとり暮らし(なし)	384	345	34	30.3
2 子	422	399	21	33.3
3 妻または夫	612	581	28	48.3
4 親	135	132	3	10.7
5 祖父母	11	11	-	0.9
6 孫	25	25	-	2.0
7 兄弟姉妹	55	53	2	4.3
8 その他	56	48	7	4.4
(無回答)	22	6	1	1.7
合計(回答者数)	1,267	1,167	76	100.0



(2) 居住者数



(3) ライフステージ別

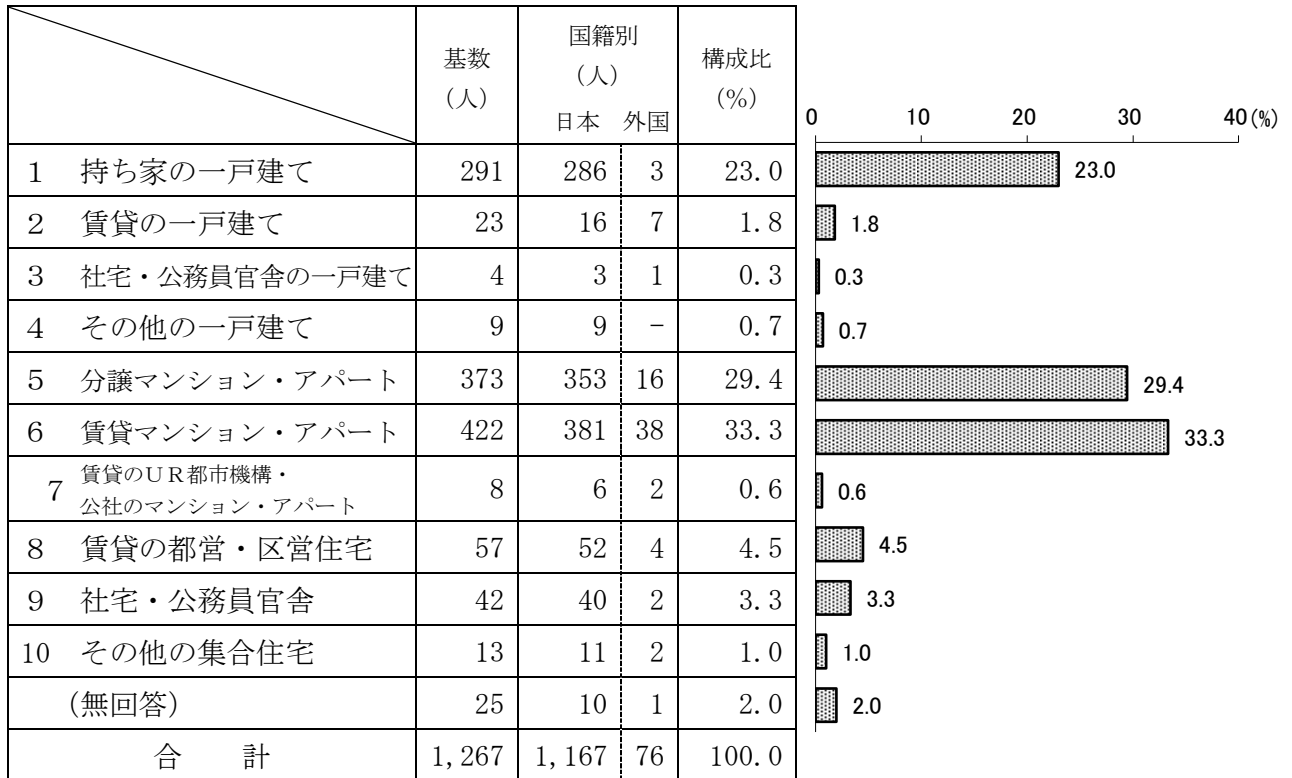


(注) ライフステージの名称及び内容は以下のとおりである。

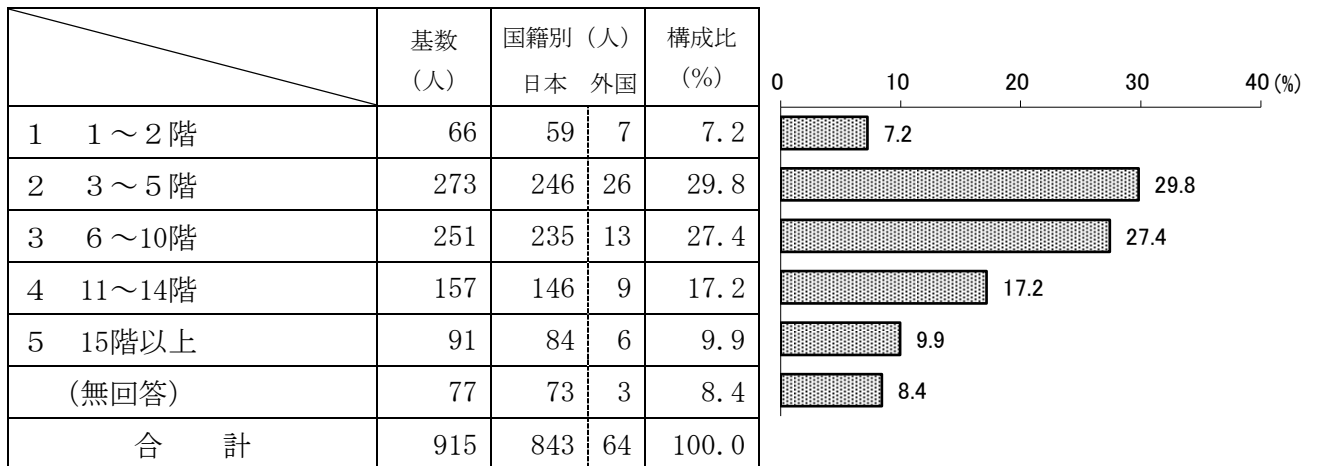
- 独身期…………… 40歳未満の独身者
- 家族形成期…………… 子どものいない40歳未満の夫婦、または一番上の子どもが入学前の人
- 家族成長前期…………… 一番上の子どもが小・中学生の人
- 家族成長後期…………… 一番上の子どもが高校・大学生の人
- 家族成熟期…………… 64歳以下で一番上の子どもが学校を卒業している人
- 高齢期…………… 65歳以上の人
- その他…………… 40歳から64歳の独身者、子どものいない40歳から64歳の夫婦など

6 住居の形態別

(1) 住居の形態

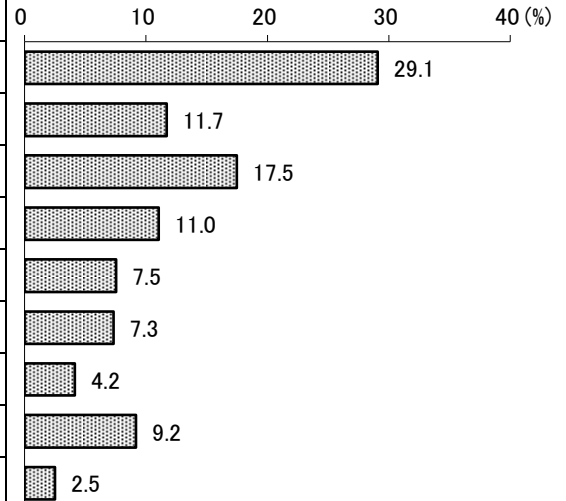


(2) 集合住宅の階数



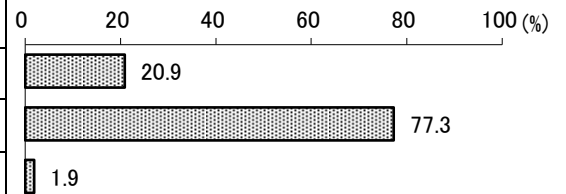
(3) 集合住宅の総戸数

	基数 (人)	国籍別 (人)		構成比 (%)
		日本	外国	
1 20戸以下	266	236	30	29.1
2 21～30戸	107	98	7	11.7
3 31～50戸	160	151	9	17.5
4 51～75戸	101	97	3	11.0
5 76～100戸	69	63	6	7.5
6 101～150戸	67	63	2	7.3
7 151～200戸	38	35	3	4.2
8 201戸以上	84	79	3	9.2
(無回答)	23	21	1	2.5
合計	915	843	64	100.0



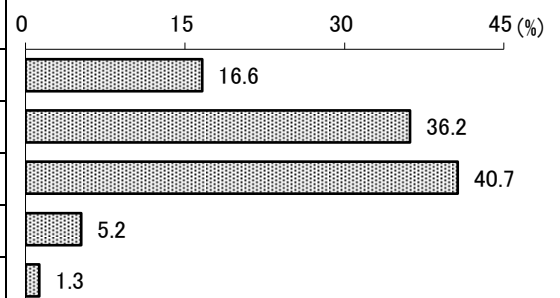
(4) 全戸ワンルームタイプの集合住宅

	基数 (人)	国籍別 (人)		構成比 (%)
		日本	外国	
1 はい	191	164	26	20.9
2 いいえ	707	664	37	77.3
(無回答)	17	15	1	1.9
合計	915	843	64	100.0



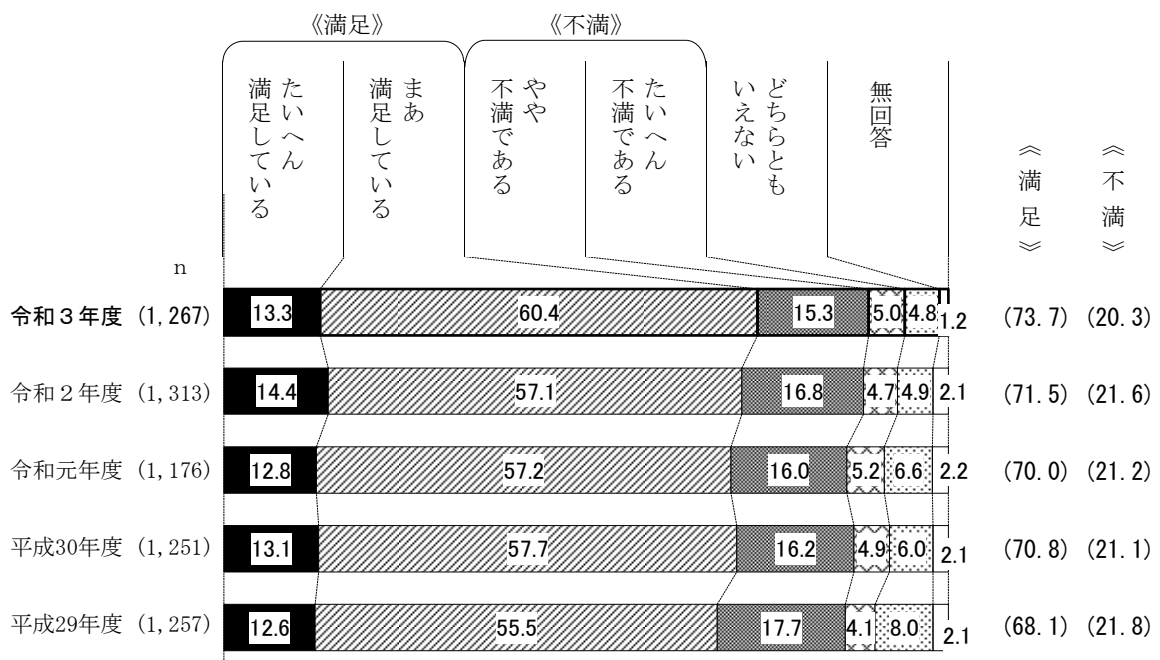
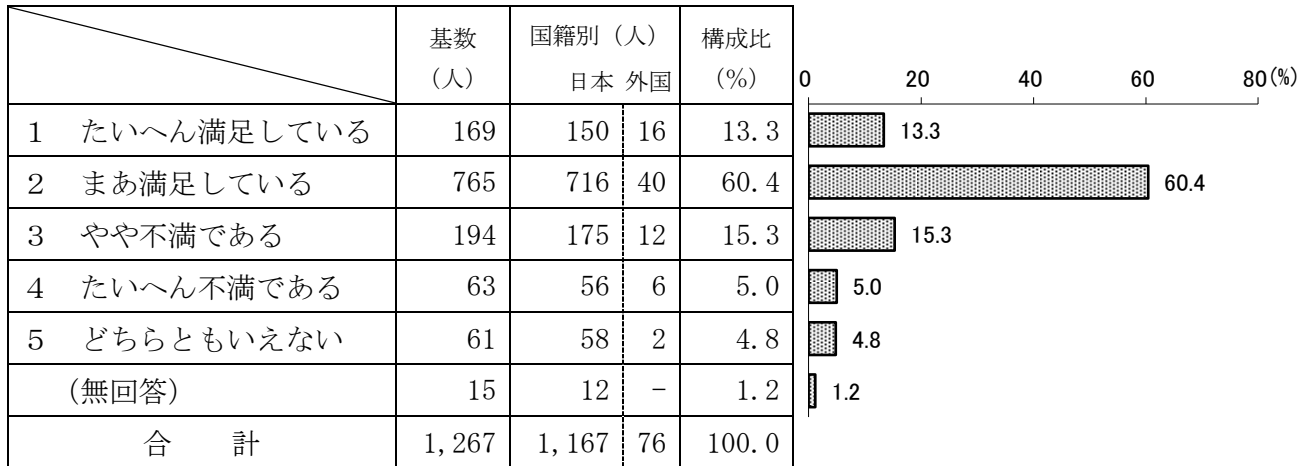
(5) 集合住宅の管理人体制

	基数 (人)	国籍別 (人)		構成比 (%)
		日本	外国	
1 24時間常駐している	152	144	8	16.6
2 昼間のみ常駐している	331	304	23	36.2
3 常駐していない	372	342	28	40.7
4 その他	48	43	4	5.2
(無回答)	12	10	1	1.3
合計	915	843	64	100.0

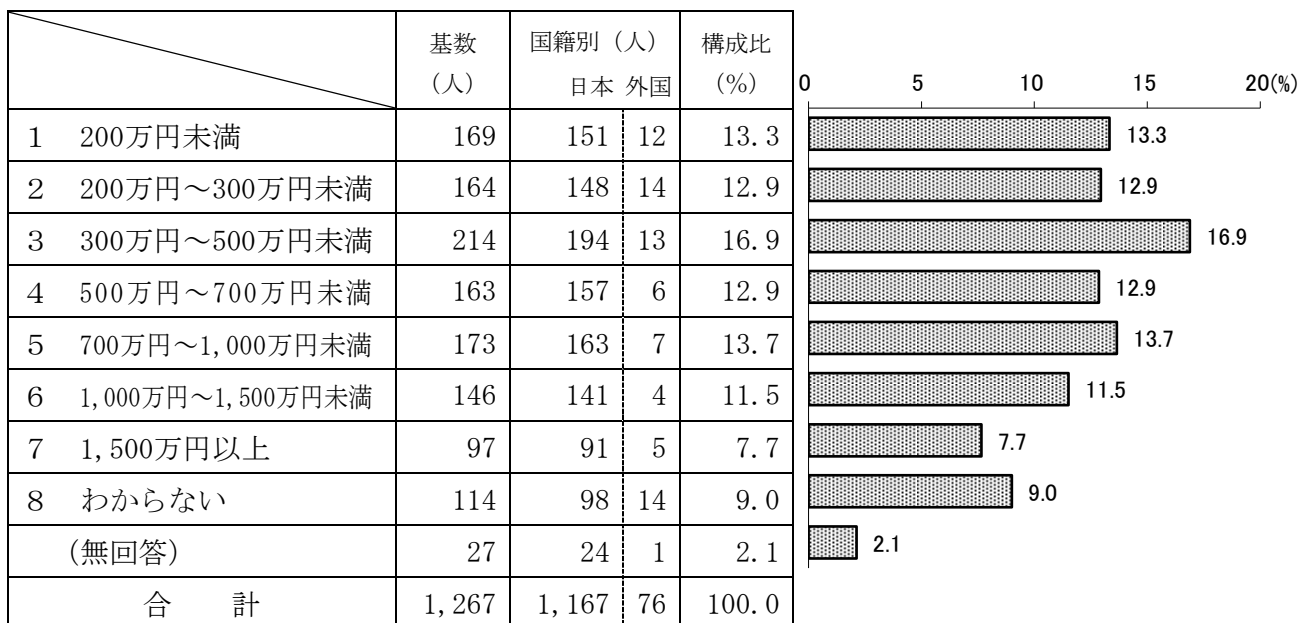


7 暮らし向き別

(1) 満足度



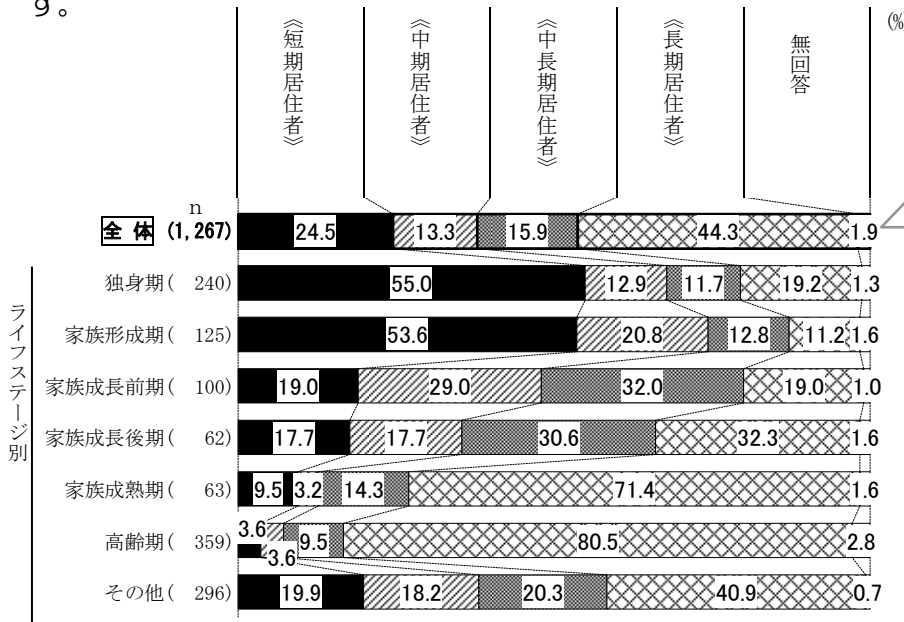
(2) 世帯収入



1 居住意向

◆20年以上の《長期居住者》が4割台半ば近くとなっています。

区での居住年数は、「1年未満」(5.7%)と「1年以上3年未満」(10.5%)、「3年以上5年未満」(8.4%)をあわせた《短期居住者》(24.5%)が2割台半ば近く、「5年以上10年未満」の《中期居住者》(13.3%)が1割台半ば近く、「10年以上20年未満」の《中長期居住者》(15.9%)は1割台半ばとなっています。最も高いのは、「20年以上30年未満」(13.1%)と「30年以上」(31.2%)をあわせた《長期居住者》(44.3%)で、4割台半ば近くとなっています。



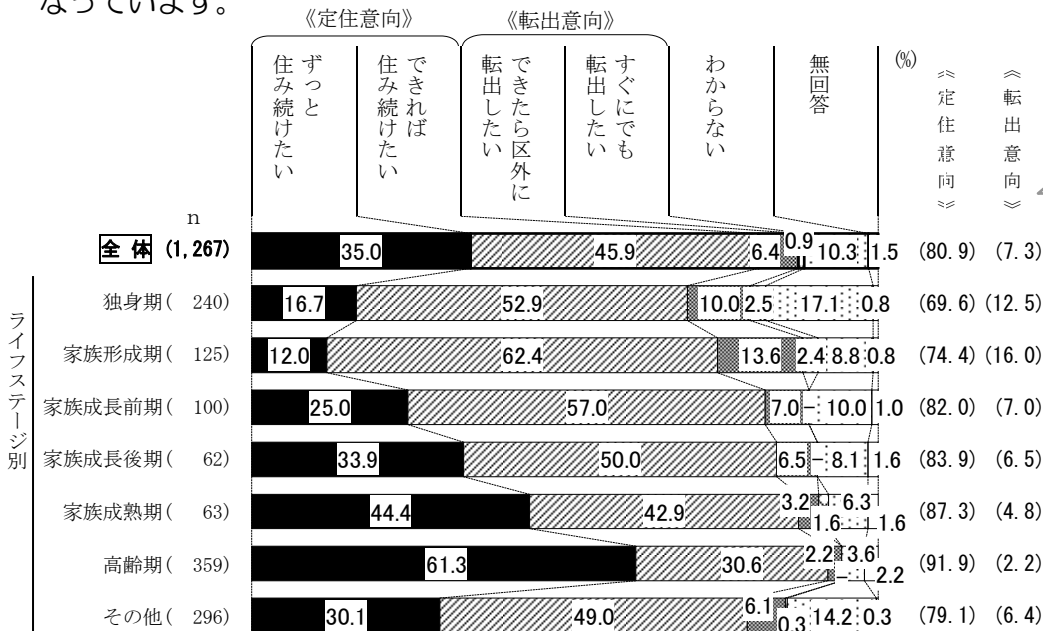
【ライフステージ別】でみると

《短期居住者》は独身期で5割台半ばと最も高く、次いで家族形成期で5割台半ば近くとなっています。《中期居住者》は家族成長前期で3割弱と最も高く、次いで家族形成期で約2割となっています。《中長期居住者》は家族成長前期で3割強と最も高く、次いで家族成長後期で約3割となっています。《長期居住者》は家族形成期で1割強となっており、それ以降ライフステージが進むほど増加し、高齢期で約8割と最も高くなっています。また、その他でも約4割を占めています。

(※) ライフステージ別の区分については、7ページを参照。

◆「ずっと住み続けたい」「できれば住み続けたい」の《定住意向》が約8割を占めています。

定住・転出意向は、「ずっと住み続けたい」(35.0%)と「できれば住み続けたい」(45.9%)をあわせた《定住意向》(80.9%)が約8割となっています。一方、「できれば転出したい」(6.4%)と「すぐにでも転出したい」(0.9%)をあわせた《転出意向》(7.3%)は1割未満となっています。



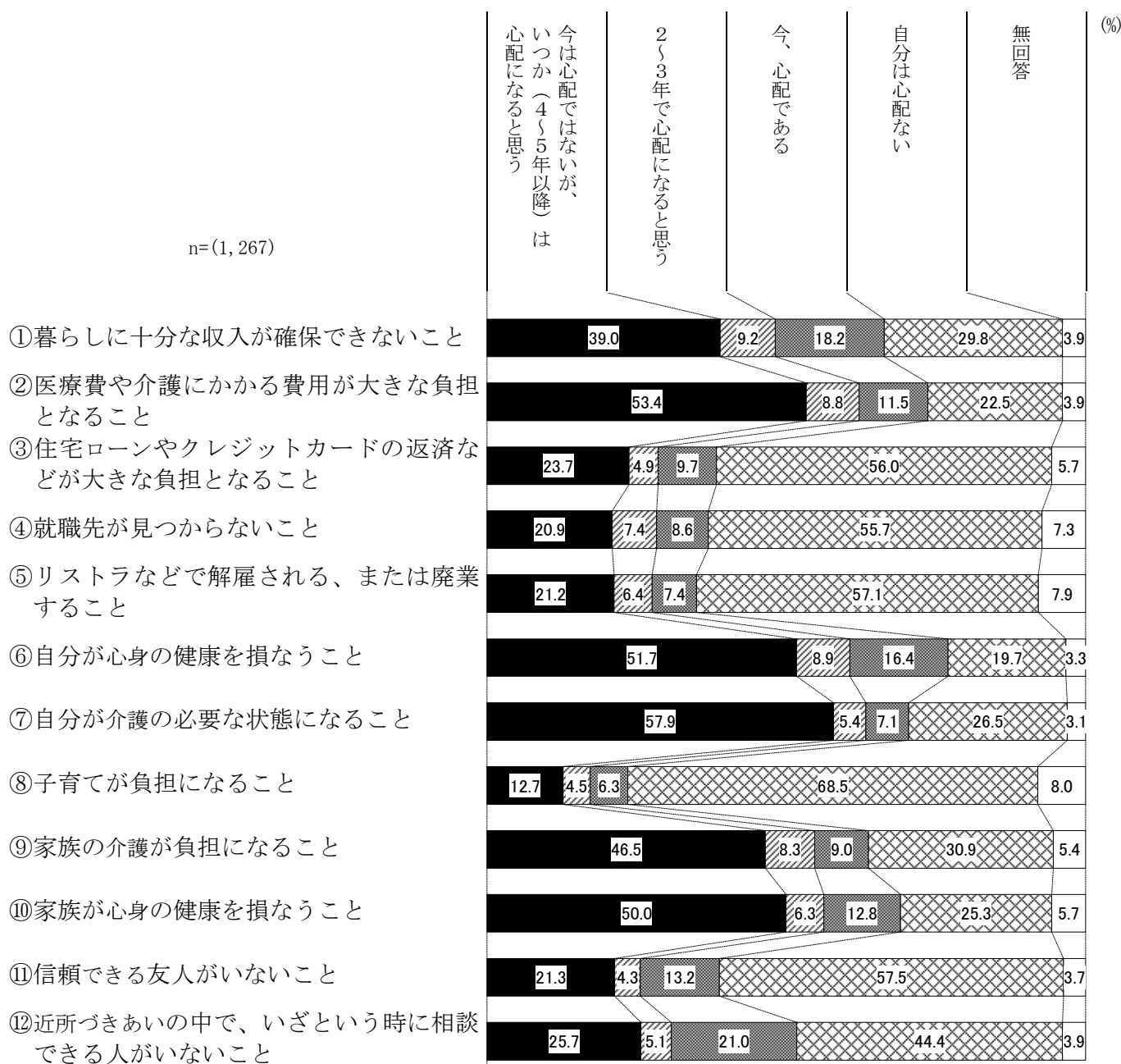
【ライフステージ別】でみると

《定住意向》は独身期と家族形成期を除いた他のライフステージで8割以上と高く、特に高齢期では9割強を占めています。一方、《転出意向》は家族形成期が1割台半ばを超えて最も高く、次いで独身期で1割強となっています。

2 生活における心配事

- ◆「今は心配ではないが、いつか（4～5年以降）は心配になると思う」は、『自分が介護の必要な状態になること』が5割台半ばを超えて最も高く、『医療費や介護にかかる費用が大きな負担となること』が5割台半ば近くで続いています。

生活における心配事で、「今は心配ではないが、いつか（4～5年以降）は心配になると思う」は“⑦自分が介護の必要な状態になること”（57.9%）が5割台半ばを超えて最も高く、次いで“②医療費や介護にかかる費用が大きな負担となること”（53.4%）が5割台半ば近く、“⑥自分が心身の健康を損なうこと”（51.7%）が5割強となっています。「今、心配である」は“⑫近所づきあいの中で、いざという時に相談できる人がいないこと”（21.0%）が2割強と最も高く、次いで“①暮らしに十分な収入が確保できないこと”（18.2%）が2割近くとなっています。一方、「自分は心配ない」は“⑧子育てが負担になること”（68.5%）が7割近くと最も高くなっています。

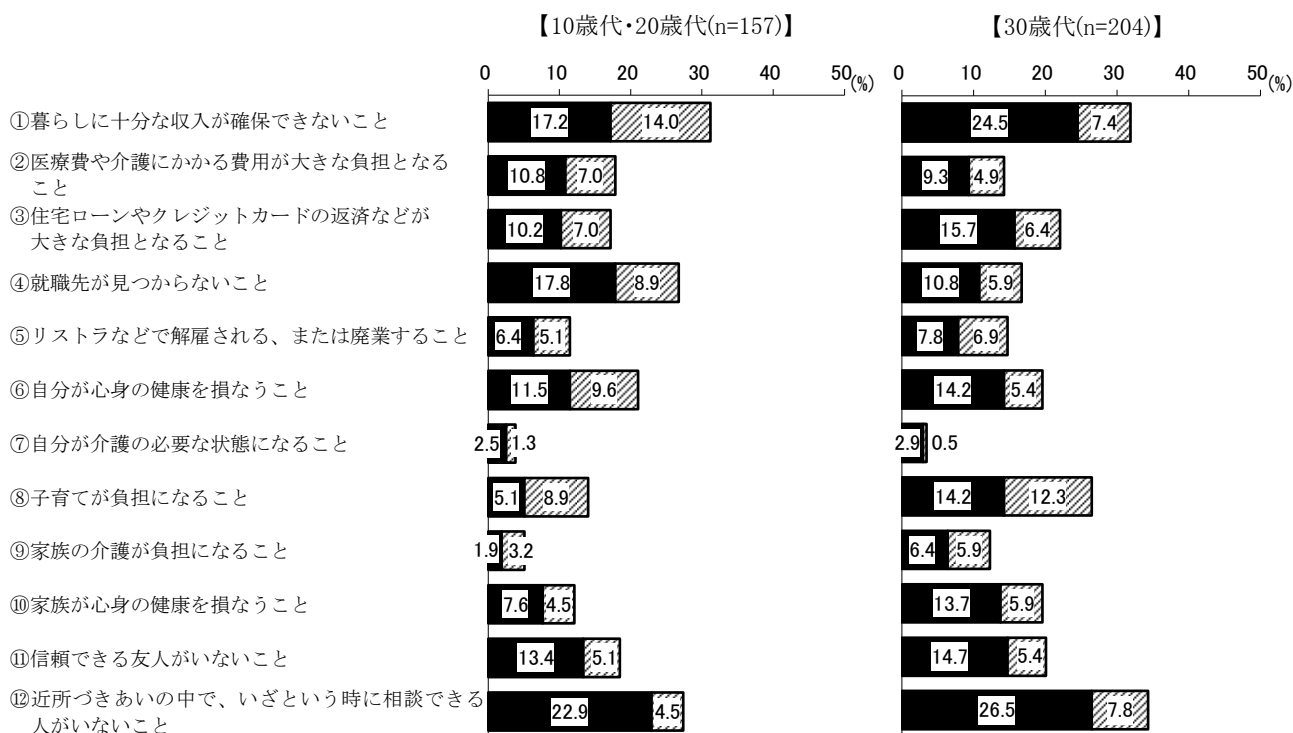


【年代別】でみると

「今、心配である」は、“⑫近所づきあいの中で、いざという時に相談できる人がいないこと”が、50歳代以下で2割台となっています。“①暮らしに十分な収入が確保できないこと”は、30歳代と60歳代で2割台となっています。“⑥自分が心身の健康を損なうこと”は、70歳以上で2割強となっています。

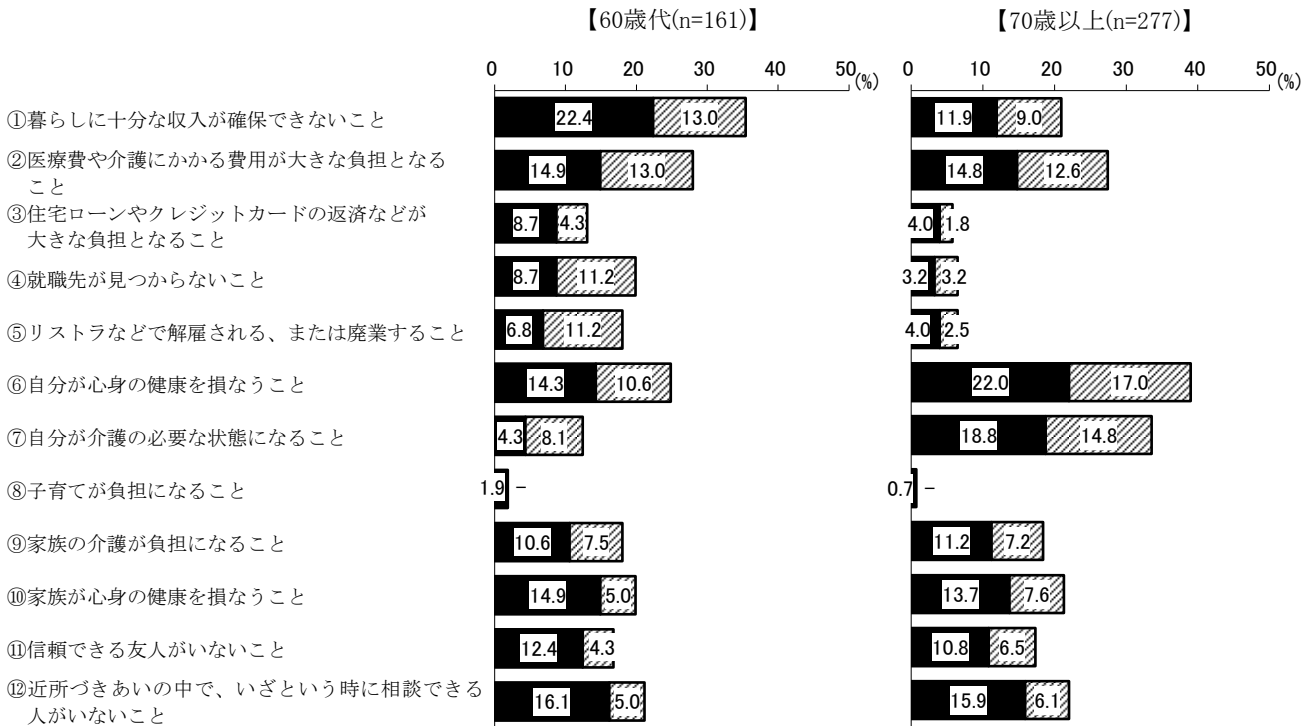
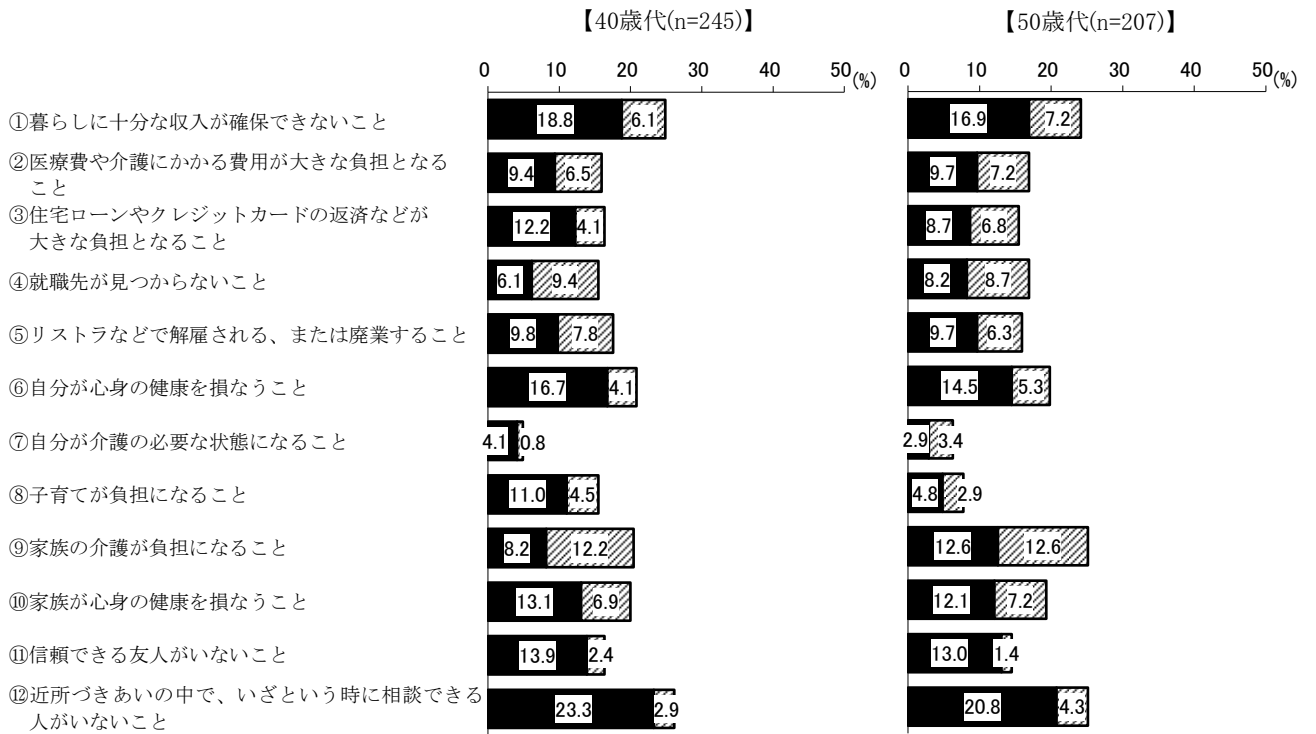
「2～3年で心配になると思う」は、“⑥自分が心身の健康を損なうこと”が70歳以上で1割台半ばを超えて高くなっています。“②医療費や介護にかかる費用が大きな負担となること”が60歳代と70歳以上で1割台、“⑧子育てが負担になること”は、30歳代で1割強となっています。

■ 今、心配である
 ▨ 2～3年で心配になると思う



(注) 図表の最大値は、領域を明確化するため50%で表示しています。

■ 今、心配である
 ▨ 2～3年で心配になると思う

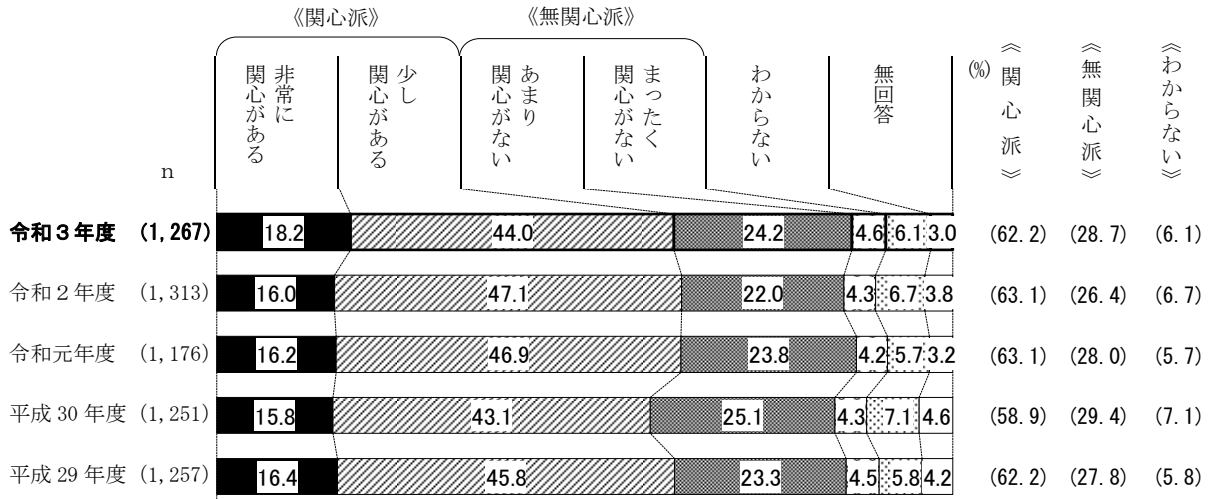


(注) 図表の最大値は、領域を明確化するため50%で表示しています。

3 区政への関心

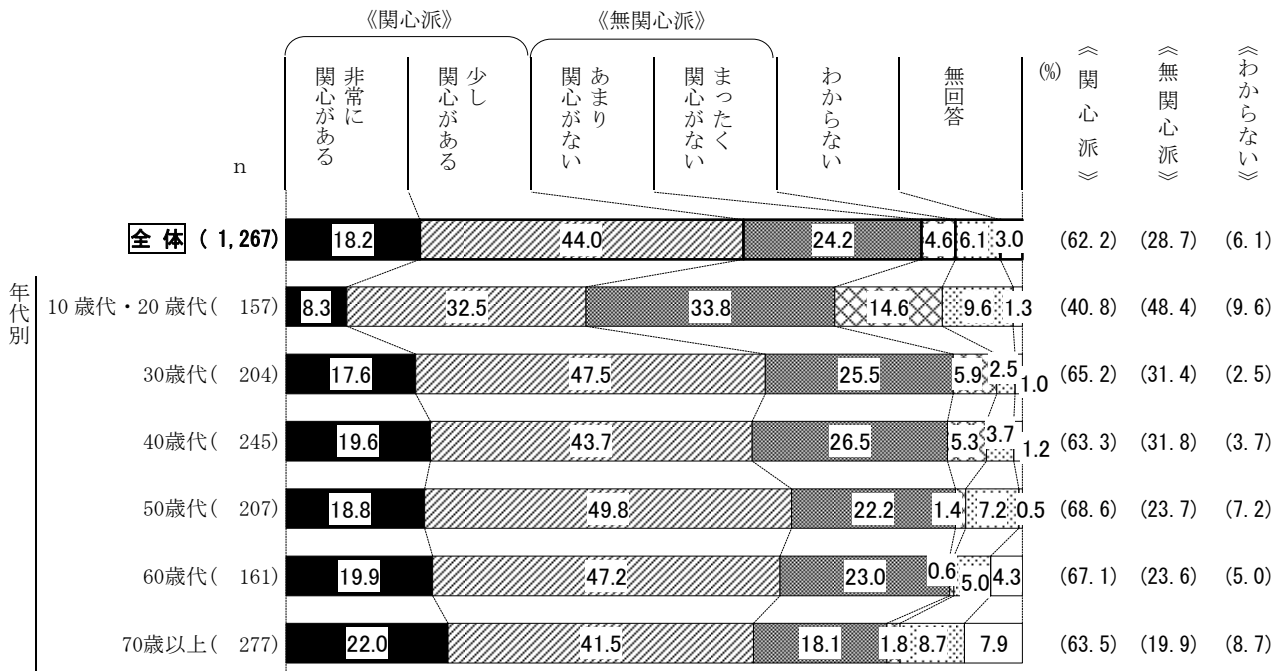
◆「非常に関心がある」「少し関心がある」の《関心派》が6割強、「あまり関心がない」「まったく関心がない」の《無関心派》が3割近くを占めています。

区政への関心度は、区政に積極的に関心を示す「非常に関心がある」(18.2%)と「少し関心がある」(44.0%)をあわせた《関心派》(62.2%)が6割強となっています。一方、「あまり関心がない」(24.2%)と「まったく関心がない」(4.6%)をあわせた《無関心派》(28.7%)は3割近くを占めています。



【時系列比較】でみると

平成29年度以降の調査結果を時系列でみると、《関心派》は平成30年度に5割台まで減少しましたが、令和元年度からは再び6割台を維持し、昨年度からは0.9ポイント減少しています。一方、《無関心派》は平成29年度以降2割台後半を維持し、昨年度からは2.3ポイント増加しています。

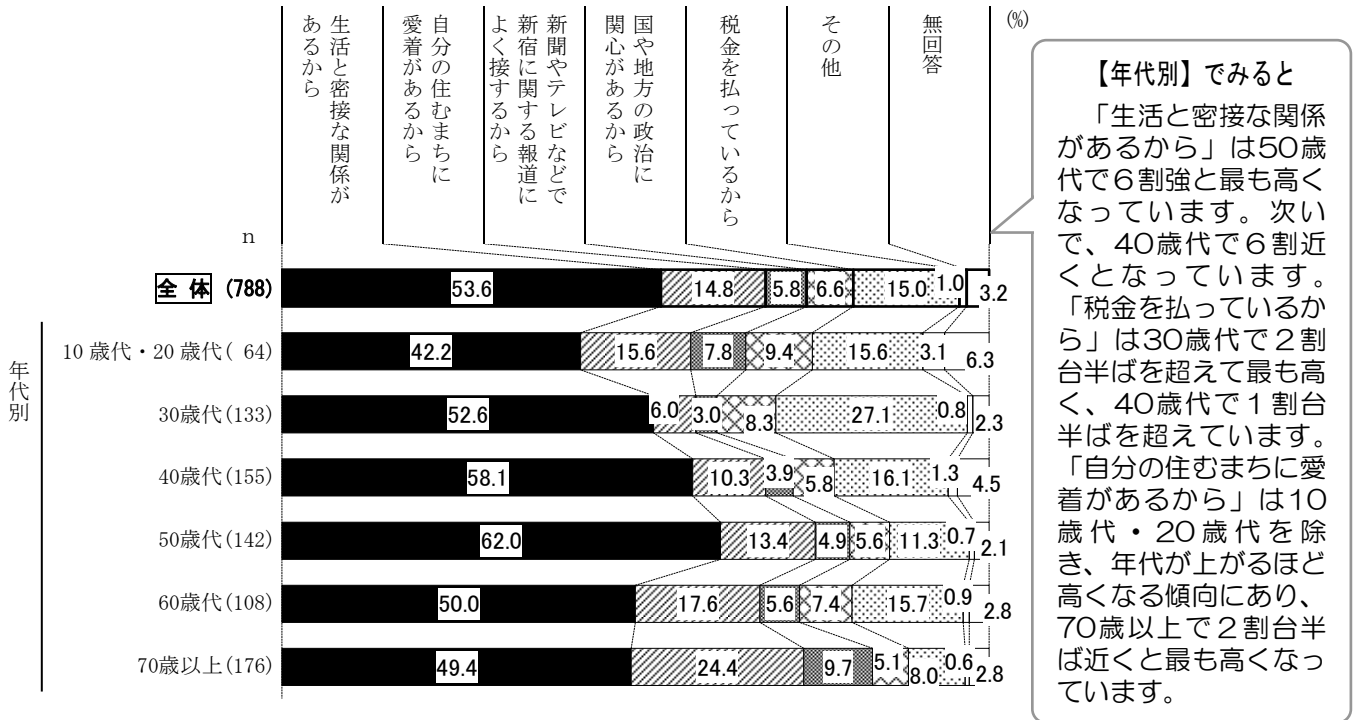


【年代別】でみると

《関心派》は50歳代で7割近くと最も高く、次いで60歳代で6割台半ばを超え、30歳代で6割台半ばと続いています。《無関心派》は10歳代・20歳代で5割近くと最も高く、40歳代と30歳代とで3割強となっています。

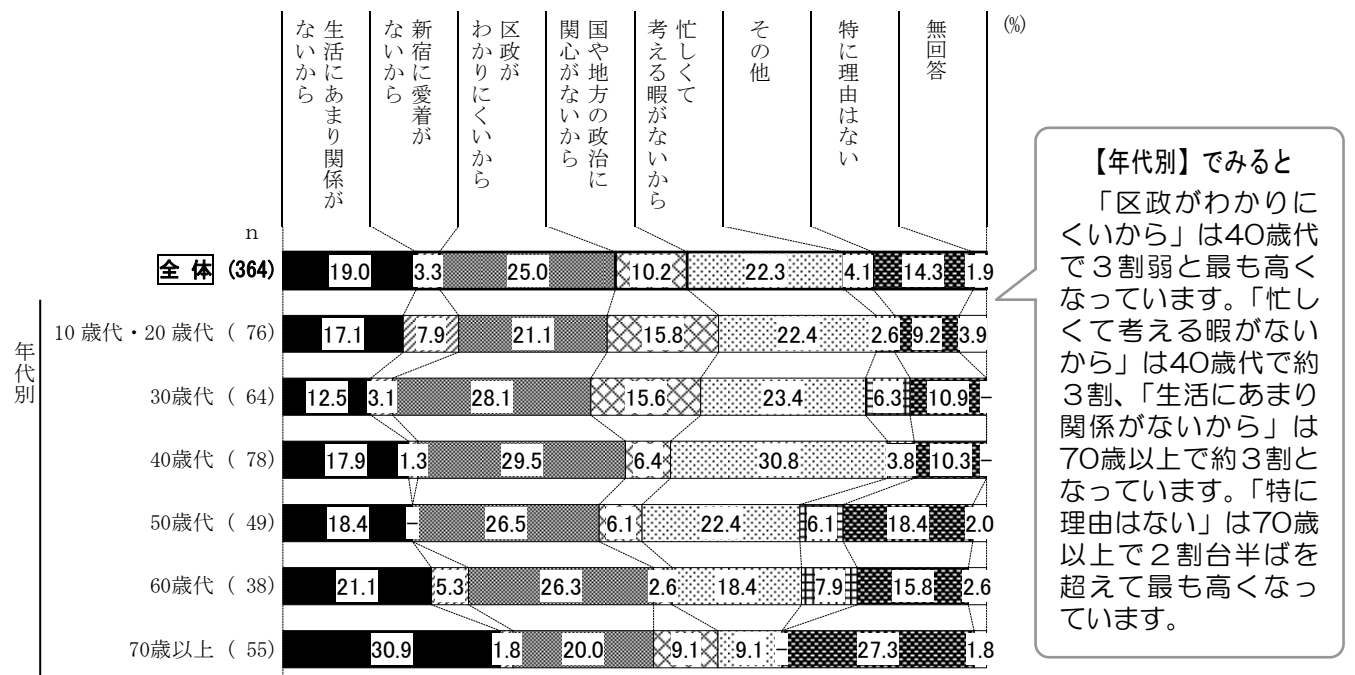
◆ 《関心派》の理由は「生活と密接な関係があるから」が5割台半ば近くで最も高くなっています。

《関心派》だった人にその理由をたずねたところ、「生活と密接な関係があるから」(53.6%)が5割台半ば近くで最も高くなっています。次いで、「税金を払っているから」(15.0%)が1割台半ば、「自分の住むまちに愛着があるから」(14.8%)が1割台半ば近くとなっています。



◆ 《無関心派》の理由は「区政がわかりにくいから」が2割台半ばで最も高く、「忙しくて考える暇がないから」が2割強で続いています。

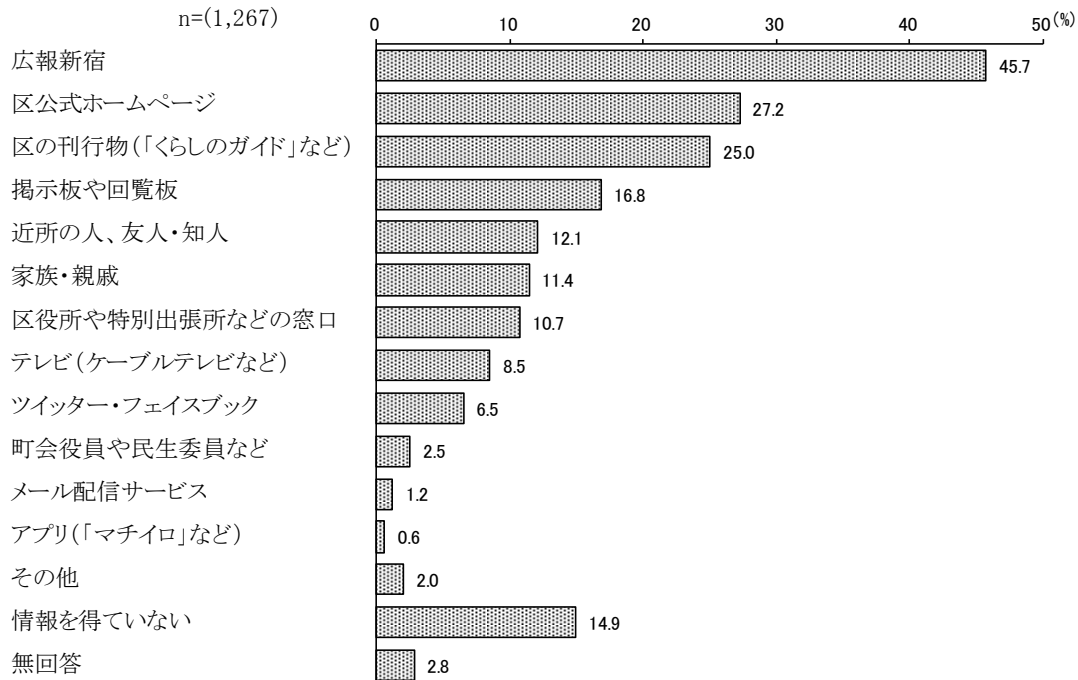
《無関心派》だった人にその理由をたずねたところ、「区政がわかりにくいから」(25.0%)が2割台半ばで最も高く、次いで「忙しくて考える暇がないから」(22.3%)が2割強、「生活にあまり関係がないから」(19.0%)が2割弱となっています。



4 区政情報の入手方法

◆「広報新宿」が4割台半ばで最も高く、「区の刊行物」が2割台半ばを超えて続いています。

区の行政サービスの情報取得手段は、「広報新宿」（45.7%）が4割台半ばで最も高く、次いで「区公式ホームページ」（27.2%）が2割台半ばを超え、「区の刊行物（「くらしのガイド」など）」（25.0%）が2割台半ばで続いています。



【年代別】でみると（上位5項目）

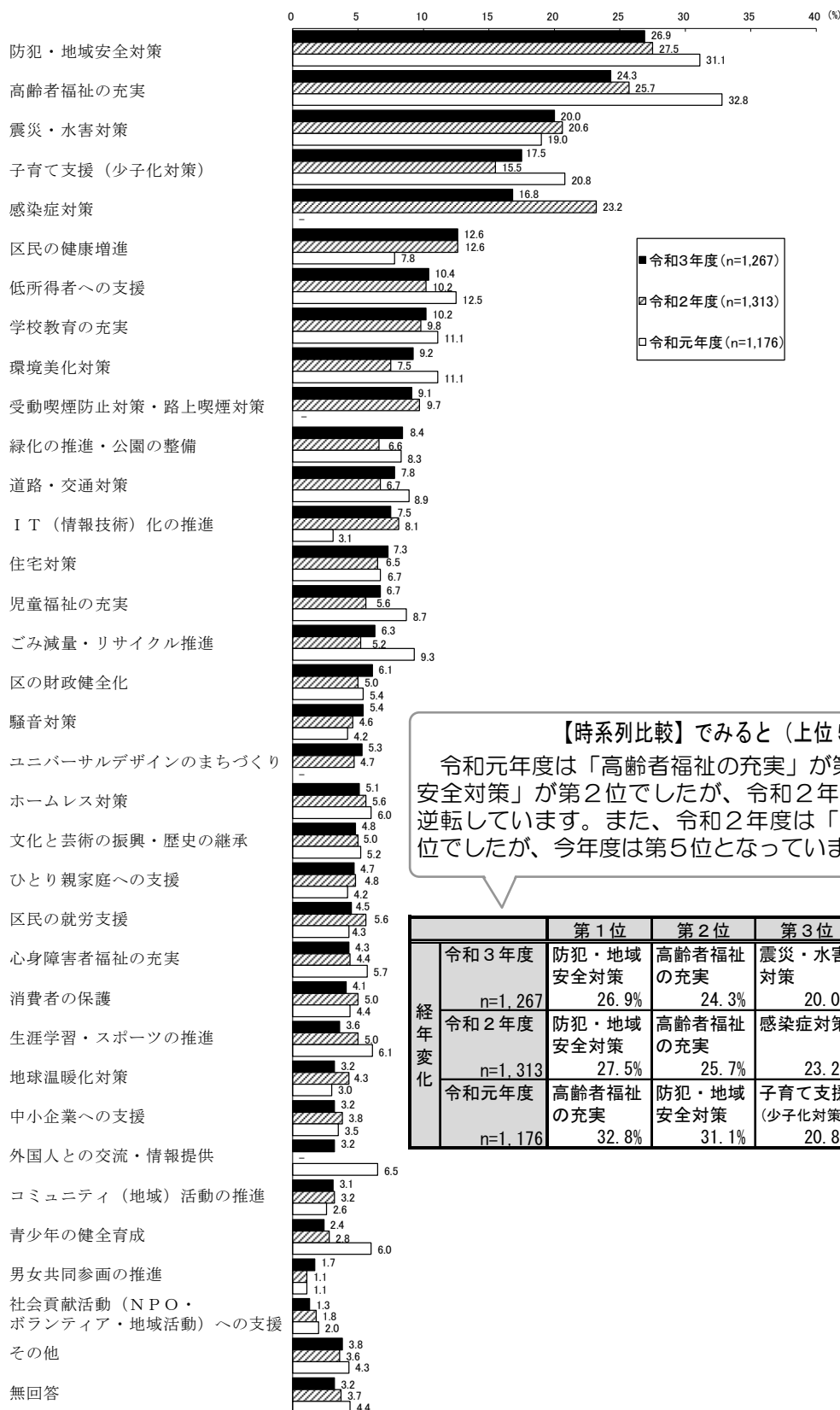
「広報新宿」は年代が上がるにつれ高くなる傾向があり、70歳以上が6割台半ばを超えて最も高くなっています。「区公式ホームページ」は40歳代が4割台半ば近く、30歳代が4割強と高くなっています。「区の刊行物」は60歳代以上で3割台となっており、特に70歳以上が4割弱で最も高くなっています。「掲示板や回覧板」は60歳代以上で2割台となっており、特に70歳以上が2割台半ばを超えて最も高くなっています。

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
		広報新宿	区公式ホームページ	区の刊行物（「くらしのガイド」など）	掲示板や回覧板	近所の人、友人・知人
全体	n=1,267	45.7%	27.2%	25.0%	16.8%	12.1%
年代別	10歳代・20歳代 n=157	14.6%	18.5%	12.1%	7.0%	7.0%
	30歳代 n=204	25.0%	42.6%	19.1%	13.7%	10.8%
	40歳代 n=245	44.9%	43.3%	15.9%	11.4%	11.8%
	50歳代 n=207	52.2%	30.9%	25.6%	15.5%	12.6%
	60歳代 n=161	59.6%	19.9%	33.5%	22.4%	16.1%
	70歳以上 n=277	66.4%	7.9%	39.7%	27.4%	13.4%

5 区政への要望

◆「防犯・地域安全対策」が2割台半ばを超えて最も高く、「高齢者福祉の充実」が2割台半ば近くで続いています。

施策への要望としては、「防犯・地域安全対策」（26.9％）が2割台半ばを超えて最も高く、次いで「高齢者福祉の充実」（24.3％）が2割台半ば近くとなっています。以下、「震災・水害対策」（20.0％）、「子育て支援（少子化対策）」（17.5％）、「感染症対策」（16.8％）の順で続いています。



【時系列比較】でみると（上位5項目）
令和元年度は「高齢者福祉の充実」が第1位、「防犯・地域安全対策」が第2位でしたが、令和2年度以降はその順位が逆転しています。また、令和2年度は「感染症対策」が第3位でしたが、今年度は第5位となっています。

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
経年変化	令和3年度 n=1,267	防犯・地域安全対策 26.9%	高齢者福祉の充実 24.3%	震災・水害対策 20.0%	子育て支援（少子化対策） 17.5%	感染症対策 16.8%
	令和2年度 n=1,313	防犯・地域安全対策 27.5%	高齢者福祉の充実 25.7%	感染症対策 23.2%	震災・水害対策 20.6%	子育て支援（少子化対策） 15.5%
	令和元年度 n=1,176	高齢者福祉の充実 32.8%	防犯・地域安全対策 31.1%	子育て支援（少子化対策） 20.8%	震災・水害対策 19.0%	低所得者への支援 12.5%

【ライフステージ別】でみると（上位5項目）

独身期で「震災・水害対策」が、家族形成期で「子育て支援（少子化対策）」が、家族成長後期とその他で「防犯・地域安全対策」が、家族成熟期と高齢期で「高齢者福祉の充実」が、それぞれ第1位となっています。

		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
ラ イ フ ス テ ー ジ 別	独身期 n=240	震災・水害対策 (22.9%)	防犯・地域安全対策 (20.0%)	子育て支援(少子化対策) (17.9%)	感染症対策 (15.8%)	区民の健康増進 (14.6%)
	家族形成期 n=125	子育て支援(少子化対策) (64.0%)	学校教育の充実 (25.6%)	児童福祉の充実 (24.8%)	防犯・地域安全対策 (20.8%)	震災・水害対策／緑化の推進・公園の整備 (12.8%)
	家族成長前期 n=100	学校教育の充実 (45.0%)	子育て支援(少子化対策) (41.0%)	防犯・地域安全対策 (29.0%)	児童福祉の充実 (19.0%)	震災・水害対策 (17.0%)
	家族成長後期 n=62	防犯・地域安全対策 (35.5%)	震災・水害対策 (27.4%)	子育て支援(少子化対策) (19.4%)	区民の健康増進／高齢者福祉の充実 (17.7%)	
	家族成熟期 n=63	高齢者福祉の充実 (33.3%)	防犯・地域安全対策 (31.7%)	震災・水害対策 (28.6%)	感染症対策 (17.5%)	ごみ減量・リサイクル推進 (12.7%)
	高齢期 n=359	高齢者福祉の充実 (50.1%)	防犯・地域安全対策 (27.3%)	感染症対策 (20.6%)	区民の健康増進 (14.5%)	震災・水害対策 (13.6%)
	その他 n=296	防犯・地域安全対策 (32.1%)	震災・水害対策 (24.7%)	高齢者福祉の充実 (22.6%)	感染症対策 (19.3%)	区民の健康増進 (13.2%)

【居住地域別】でみると（上位5項目）

「防犯・地域安全対策」は落合第二を除く全ての地域で第2位までに入っています。また、「高齢者福祉の充実」は榎町を除く全ての地域で第3位までに入っています。「震災・水害対策」は大久保を除く全ての地域で第4位までに入っています。

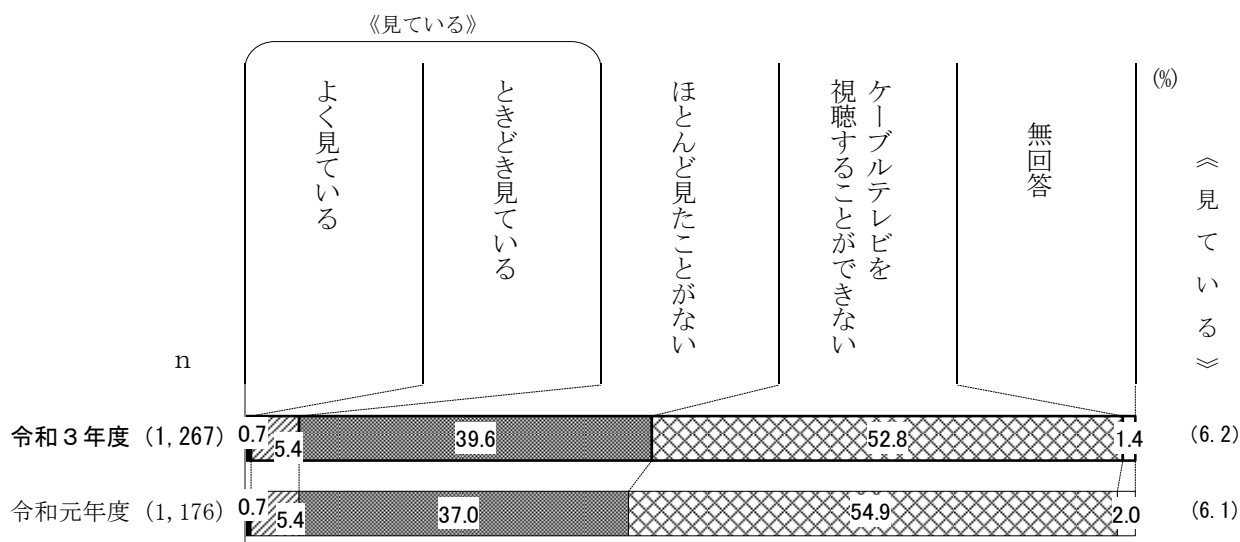
		第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
居 住 地 域 別	四谷 n=167	防犯・地域安全対策 (28.7%)	高齢者福祉の充実 (21.6%)	震災・水害対策 (18.0%)	子育て支援(少子化対策) (16.8%)	区民の健康増進 (14.4%)
	笹笥町 n=135	震災・水害対策 (30.4%)	防犯・地域安全対策 (25.9%)	高齢者福祉の充実 (23.0%)	子育て支援(少子化対策) (20.0%)	感染症対策 (15.6%)
	榎町 n=123	防犯・地域安全対策 (26.8%)	子育て支援(少子化対策) (25.2%)	震災・水害対策／感染症対策 (21.1%)		高齢者福祉の充実 (20.3%)
	若松町 n=137	高齢者福祉の充実 (28.5%)	防犯・地域安全対策 (20.4%)	子育て支援(少子化対策) (19.7%)	震災・水害対策 (19.0%)	区民の健康増進／感染症対策 (15.3%)
	大久保 n=135	防犯・地域安全対策 (34.1%)	高齢者福祉の充実 (24.4%)	感染症対策 (17.8%)	区民の健康増進 (17.0%)	子育て支援(少子化対策) (14.8%)
	戸塚 n=146	防犯・地域安全対策 (28.1%)	高齢者福祉の充実 (24.7%)	感染症対策 (19.9%)	震災・水害対策 (17.8%)	子育て支援(少子化対策) (13.7%)
	落合第一 n=109	防犯・地域安全対策 (33.0%)	高齢者福祉の充実 (27.5%)	震災・水害対策 (22.0%)	感染症対策 (18.3%)	子育て支援(少子化対策)／環境美化対策 (15.6%)
	落合第二 n=132	高齢者福祉の充実 (24.2%)	震災・水害対策 (22.0%)	子育て支援(少子化対策) (21.2%)	防犯・地域安全対策 (20.5%)	区民の健康増進／学校教育の充実／感染症対策 (12.1%)
	柏木 n=96	防犯・地域安全対策 (29.2%)	高齢者福祉の充実／感染症対策 (21.9%)		震災・水害対策 (17.7%)	低所得者への支援 (14.6%)
	角筈・区役所 n=59	高齢者福祉の充実 (25.4%)	防犯・地域安全対策 (23.7%)	震災・水害対策 (20.3%)	ホームレス対策／感染症対策 (18.6%)	

(注) 同率のものは、同一順位として併記しています。

6 区政情報の発信

◆広報番組の視聴については、「よく見ている」「ときどき見ている」の《見ている》は1割未満にとどまっています。

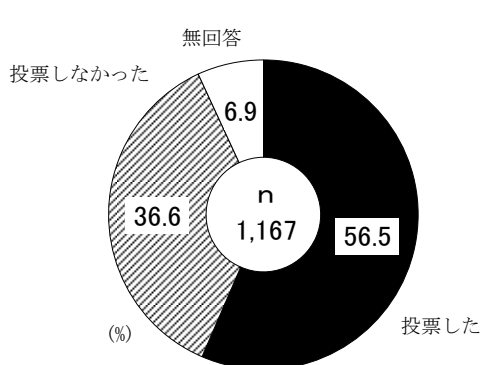
広報番組の視聴については、「よく見ている」(0.7%)と「ときどき見ている」(5.4%)をあわせた《見ている》(6.2%)が1割未満にとどまっています。一方、「ケーブルテレビを視聴することができない」(52.8%)が5割強で最も高く、次いで「ほとんど見たことがない」(39.6%)が4割弱となっています。



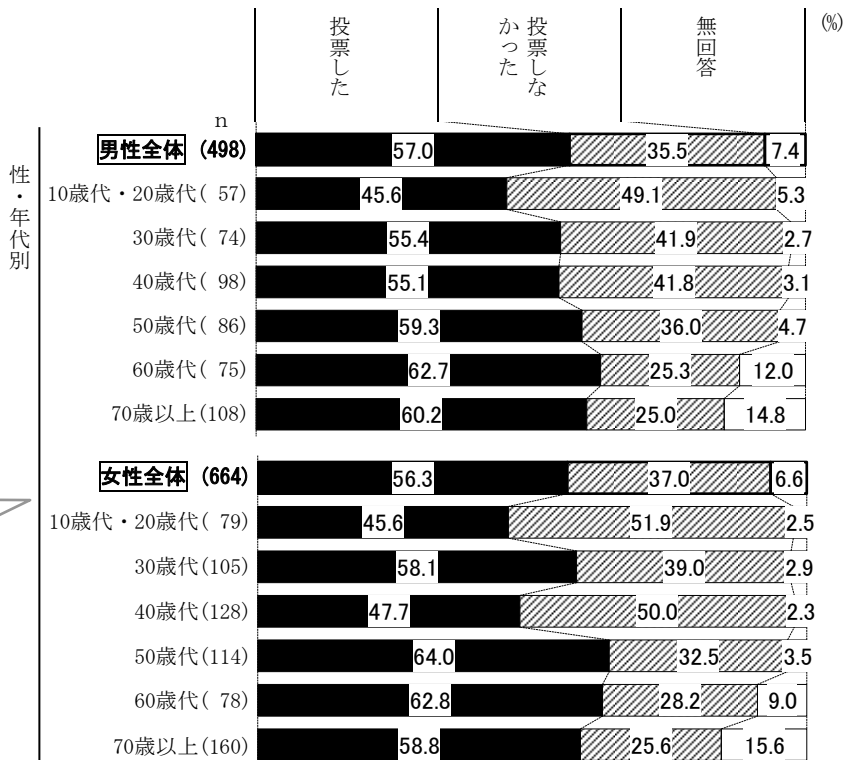
7 選挙

◆「投票した」が5割台半ばを超え、「投票しなかった」が3割台半ばを超えています。

東京都議会議員選挙の投票の有無は、「投票した」(56.5%)が5割台半ばを超え、「投票しなかった」(36.6%)が3割台半ばを超えています。

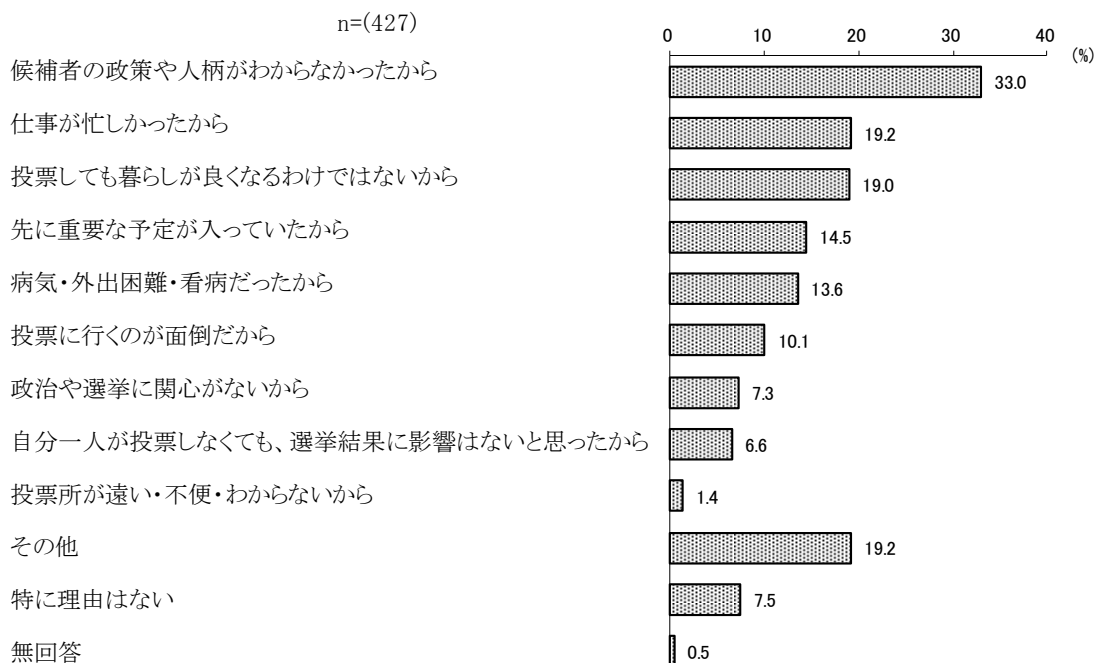


【性・年代別】でみると
 「投票した」は女性の50歳代が6割台半ば近くと高くなっています。次いで男性の60歳以上と女性の60歳代が6割台となっています。
 一方、「投票しなかった」は女性の10歳代・20歳代で5割強、女性の40歳代で5割となっています。



◆「投票しなかった」理由は、「候補者の政策や人柄がわからなかったから」が3割台半ば近くで最も高くなっています。

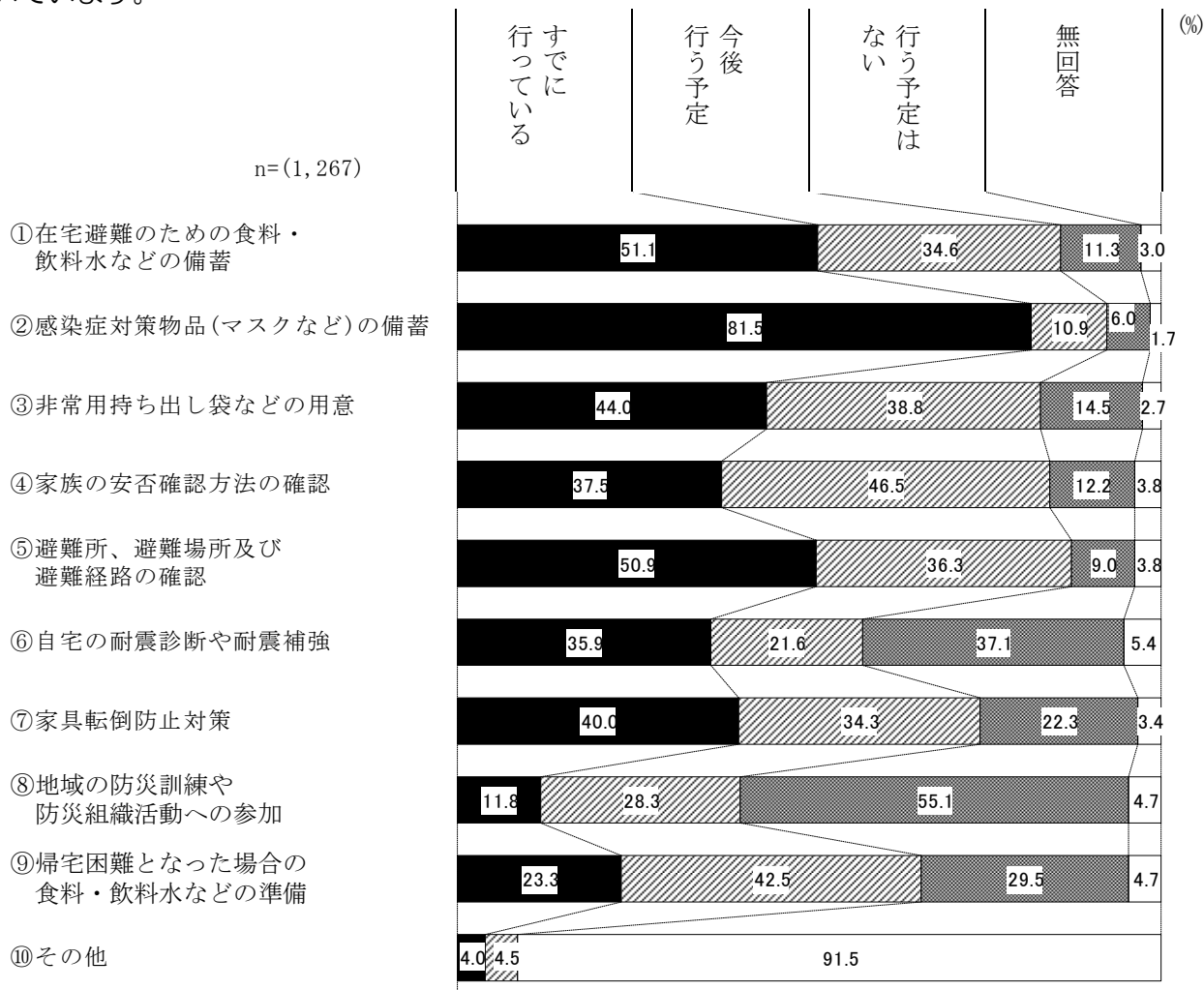
「投票しなかった」理由をたずねたところ、「候補者の政策や人柄がわからなかったから」(33.0%)が3割台半ば近くで最も高くなっています。次いで、「仕事が忙しかったから」(19.2%)、「投票しても暮らしが良くなるわけではないから」(19.0%)が2割弱で続いています。



8 震災対策

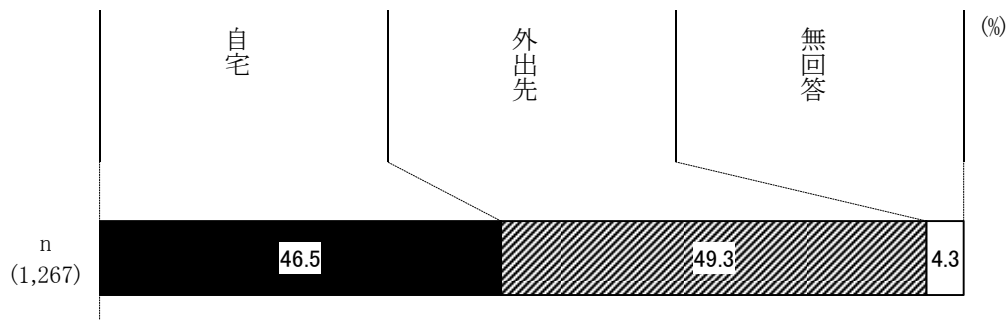
- ◆ 「すでに行っている」は、『感染症対策物品(マスクなど)の備蓄』が8割強で最も高く、『在宅避難のための食料・飲料水などの備蓄』が5割強で続いています。

震災に対する備えをみると、「すでに行っている」は、“②感染症対策物品(マスクなど)の備蓄”(81.5%)が8割強で最も高くなっています。次いで“①在宅避難のための食料・飲料水などの備蓄”(51.1%)が5割強、“⑤避難所、避難場所及び避難経路の確認”(50.9%)が約5割で続いています。



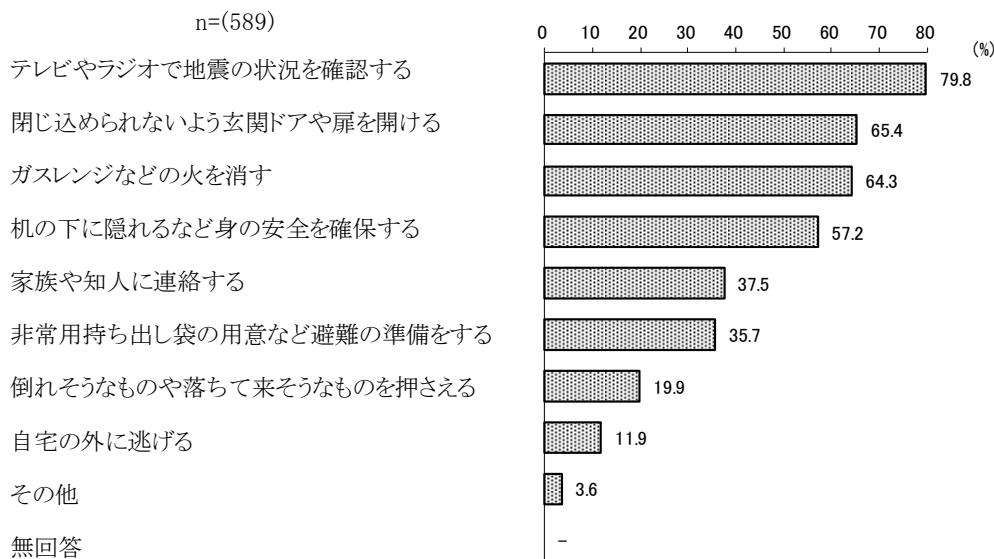
◆平日の日中の居場所は、「自宅」が4割台半ばを超え、「外出先」が5割弱となっています。

平日の日中の居場所は、「自宅」(46.5%)が4割台半ばを超え、「外出先」(49.3%)が5割弱となっています。



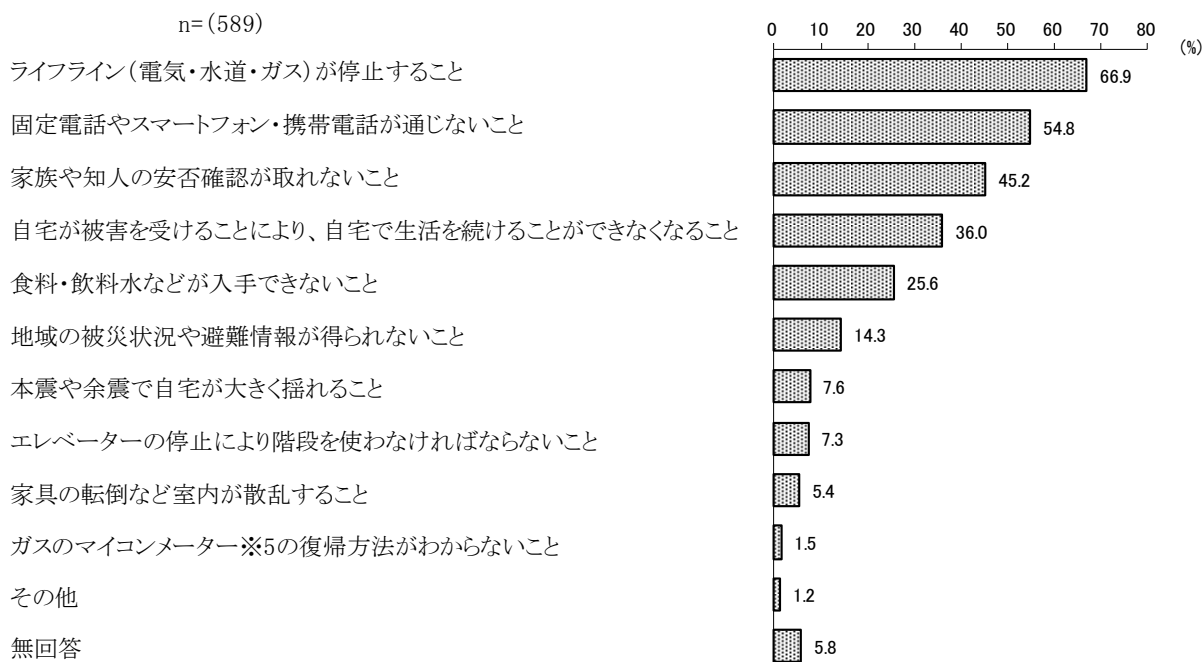
◆震災発生直後の行動(自宅にいる場合)は、「テレビやラジオで地震の状況を確認する」が8割弱で最も高く、「閉じ込められないよう玄関ドアや扉を開ける」が6割台半ばで続いています。

震災発生直後の行動(自宅にいる場合)は、「テレビやラジオで地震の状況を確認する」(79.8%)が8割弱で最も高くなっています。次いで「閉じ込められないよう玄関ドアや扉を開ける」(65.4%)が6割台半ば、「ガスレンジなどの火を消す」(64.3%)が6割台半ば近くで続いています。



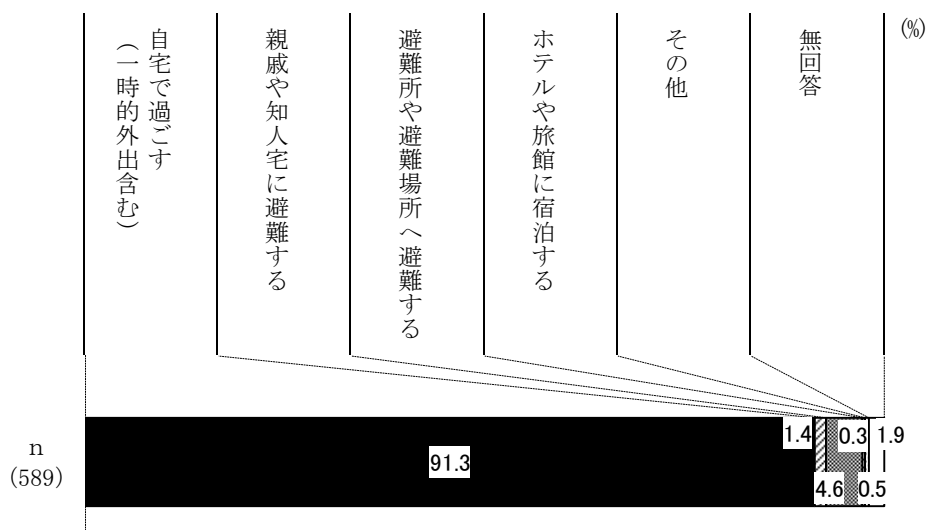
◆震災発生時、特に困ること（自宅にいる場合）は、「ライフライン（電気・水道・ガス）が停止すること」が6割台半ばを超えて最も高く、「固定電話やスマートフォン・携帯電話が通じないこと」が5割台半ば近くで続いています。

震災発生時、特に困ること（自宅にいる場合）は、「ライフライン（電気・水道・ガス）が停止すること」（66.9%）が6割台半ばを超えて最も高くなっています。次いで「固定電話やスマートフォン・携帯電話が通じないこと」（54.8%）が5割台半ば近く、「家族や知人の安否確認が取れないこと」（45.2%）が4割台半ばで続いています。



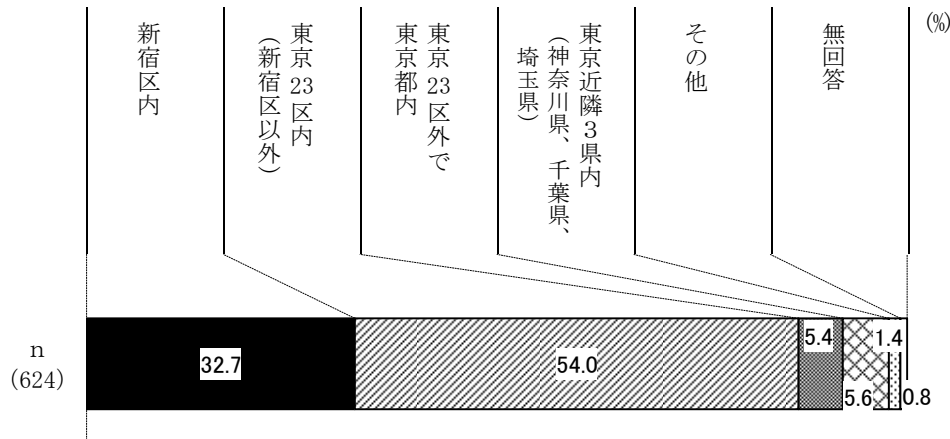
◆自宅が被害を受けていない場合の行動は、「自宅で過ごす（一時的外出含む）」が9割強で最も高くなっています。

自宅が被害を受けていない場合の行動は、「自宅で過ごす（一時的外出含む）」（91.3%）が9割強となっています。



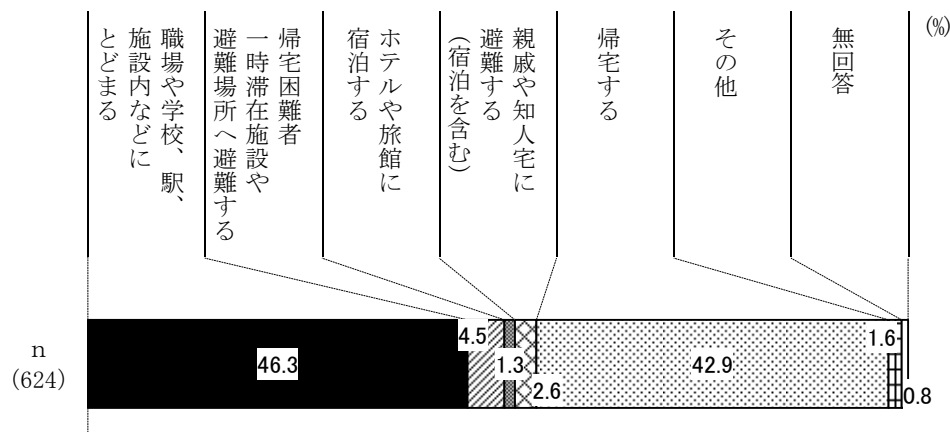
◆平日の日中の外出先は、「東京23区内（新宿区以外）」が5割台半ば近くで最も高く、「新宿区内」が3割強で続いています。

平日の日中の外出先は、「東京23区内（新宿区以外）」（54.0%）が5割台半ば近くで最も高く、「新宿区内」（32.7%）が3割強で続いています。



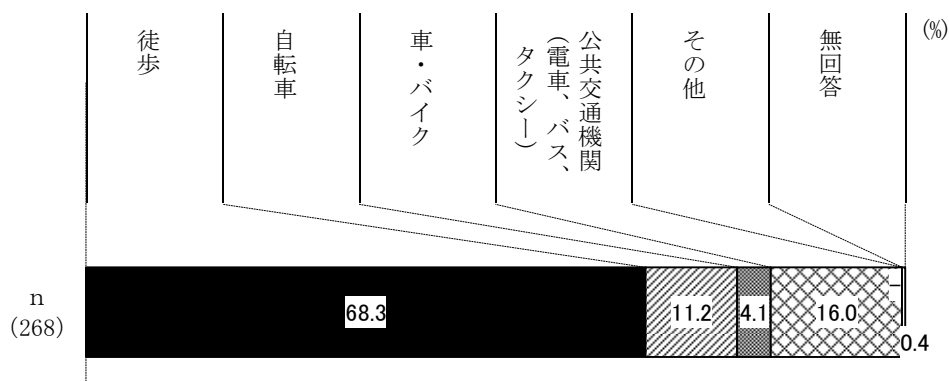
◆震災発生後の行動（外出先にいる場合）は、「職場や学校、駅、施設内などにとどまる」が4割台半ばを超えて最も高く、「帰宅する」が4割強で続いています。

震災発生後の行動（外出先にいる場合）は、「職場や学校、駅、施設内などにとどまる」（46.3%）が4割台半ばを超えて最も高く、「帰宅する」（42.9%）が4割強で続いています。



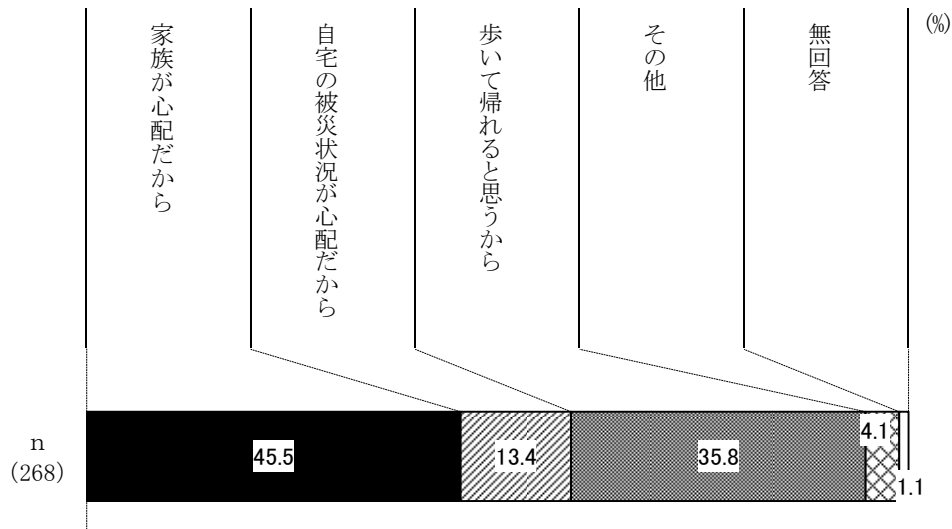
◆帰宅する際の移動手段（外出先にいる場合）は、「徒歩」が7割近くで最も高く、「公共交通機関（電車、バス、タクシー）」が1割台半ばを超えて続いています。

帰宅する際の移動手段（外出先にいる場合）は、「徒歩」（68.3%）が7割近くで最も高く、「公共交通機関（電車、バス、タクシー）」（16.0%）が1割台半ばを超えて続いています。



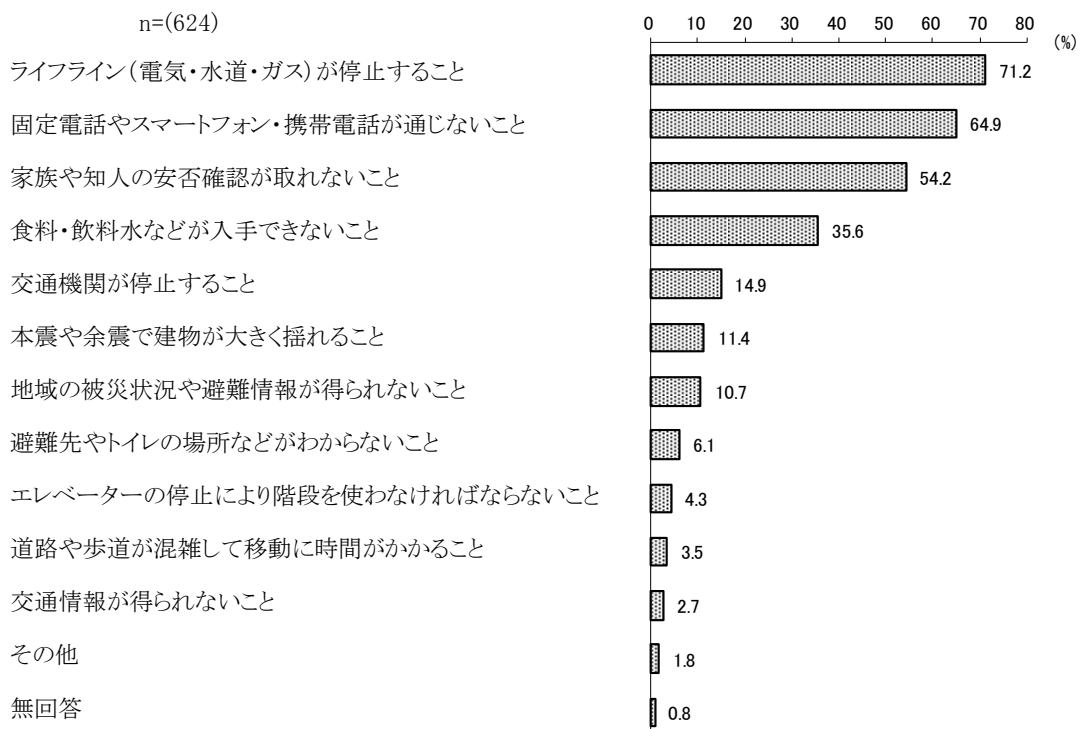
◆**帰宅する理由（外出先にいる場合）は、「家族が心配だから」が4割台半ばで最も高く、「歩いて帰れると思うから」が3割台半ばで続いています。**

帰宅する理由（外出先にいる場合）は、「家族が心配だから」（45.5%）が4割台半ばで最も高く、「歩いて帰れると思うから」（35.8%）が3割台半ばで続いています。



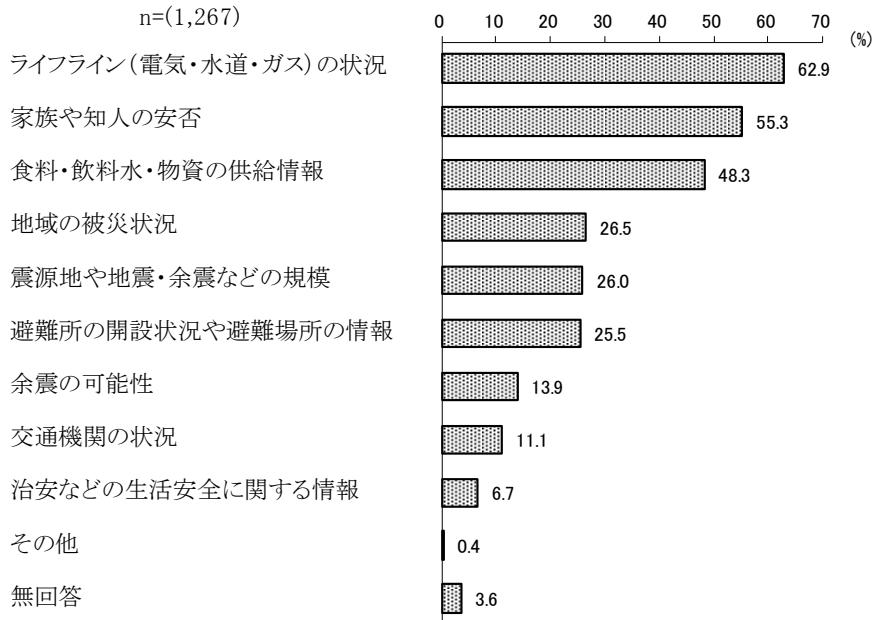
◆**震災発生時、特に困ること（外出先にいる場合）は、「ライフライン（電気・水道・ガス）が停止すること」が7割強で最も高く、「固定電話やスマートフォン・携帯電話が通じないこと」が6割台半ば近くで続いています。**

震災発生時、特に困ること（外出先にいる場合）は、「ライフライン（電気・水道・ガス）が停止すること」（71.2%）が7割強で最も高くなっています。次いで「固定電話やスマートフォン・携帯電話が通じないこと」（64.9%）が6割台半ば近く、「家族や知人の安否確認が取れないこと」（54.2%）が5割台半ば近くで続いています。



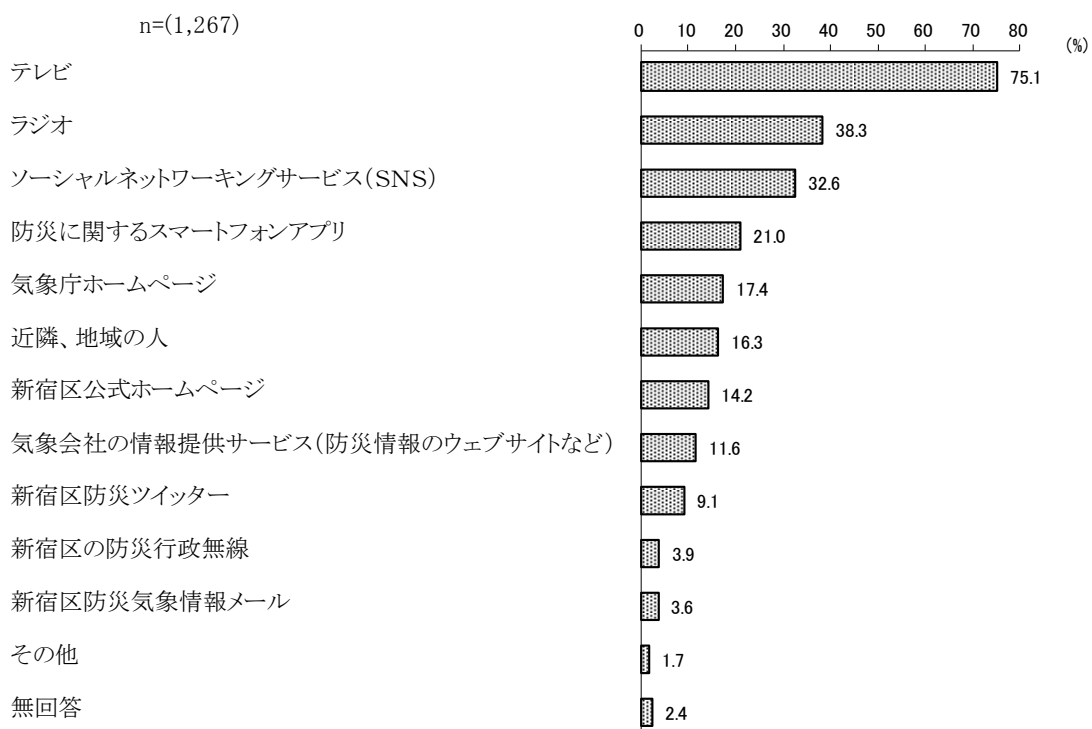
◆震災発生時の必要な情報は、「ライフライン（電気・水道・ガス）の状況」が6割強で最も高く、「家族や知人の安否」が5割台半ばで続いています。

震災発生時の必要な情報は、「ライフライン（電気・水道・ガス）の状況」（62.9%）が6割強で最も高くなっています。次いで「家族や知人の安否」（55.3%）が5割台半ば、「食料・飲料水・物資の供給情報」（48.3%）が5割近くで続いています。



◆震災発生時の情報の入手方法は、「テレビ」が7割台半ばで最も高くなっています。

震災発生時の情報の入手方法は、「テレビ」（75.1%）が7割台半ばで最も高くなっています。次いで「ラジオ」（38.3%）が4割近く、「ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）」（32.6%）が3割強で続いています。

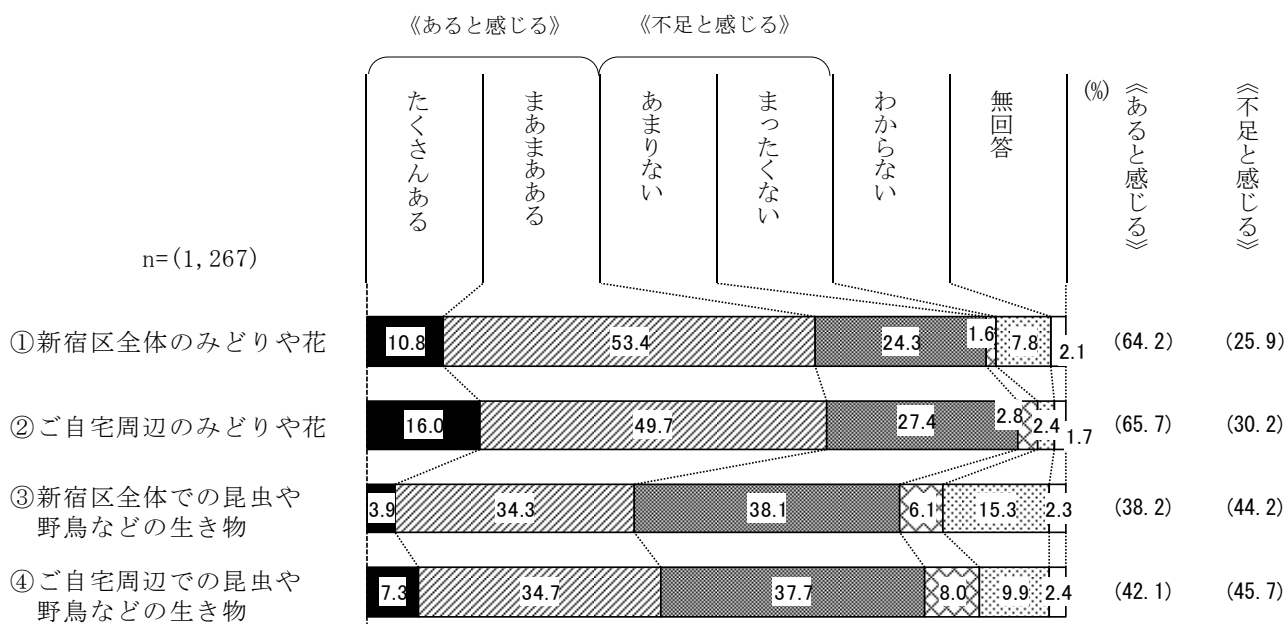


9 新宿区のみどりと新宿中央公園

◆新宿区のみどりの環境は、「たくさんある」と「まあまあある」をあわせた《あると感じる》は『ご自宅周辺のみどりや花』が6割台半ばで最も高く、『新宿区全体のみどりや花』が6割台半ば近くで続いています。

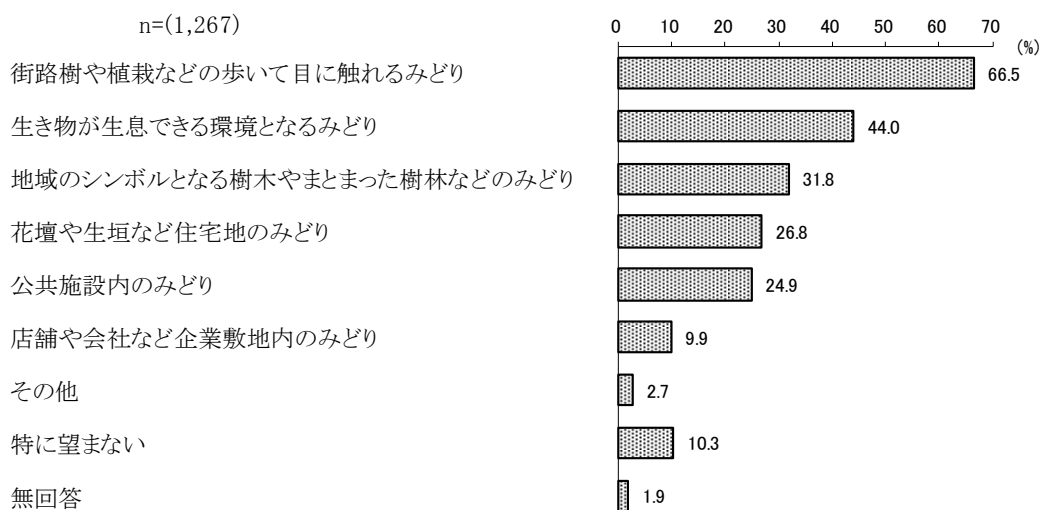
新宿区のみどりの環境をみると、「たくさんある」と「まあまあある」をあわせた《あると感じる》は、“②ご自宅周辺のみどりや花”（65.7%）が6割台半ば、“①新宿区全体のみどりや花”（64.2%）が6割台半ば近く、“④ご自宅周辺での昆虫や野鳥などの生き物”（42.1%）が4割強、“③新宿区全体での昆虫や野鳥などの生き物”（38.2%）が4割近くとなっています。

一方、「あまりない」と「まったくない」をあわせた《不足と感じる》は、“④ご自宅周辺での昆虫や野鳥などの生き物”（45.7%）が4割台半ばで、他の項目に比べ高くなっています。



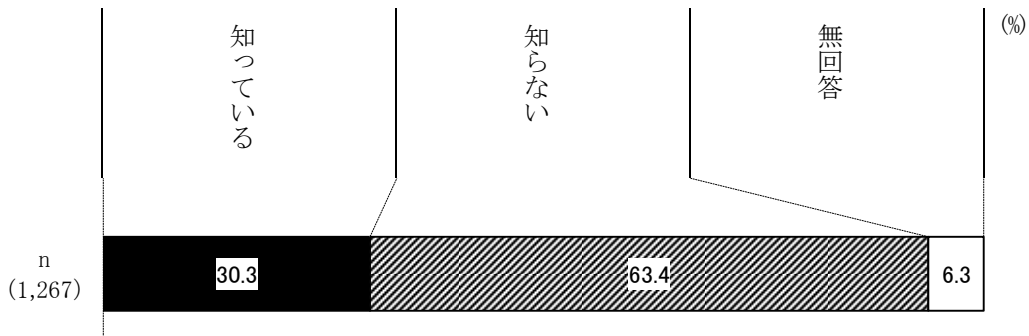
◆充実を望むみどりの種類は、「街路樹や植栽などの歩いて目に触れるみどり」が6割台半ばを超えて最も高くなっています。

充実を望むみどりの種類は、「街路樹や植栽などの歩いて目に触れるみどり」（66.5%）が6割台半ばを超えて最も高くなっています。次いで「生き物が生息できる環境となるみどり」（44.0%）が4割台半ば近く、「地域のシンボルとなる樹木やまとまった樹林などのみどり」（31.8%）が3割強で続いています。



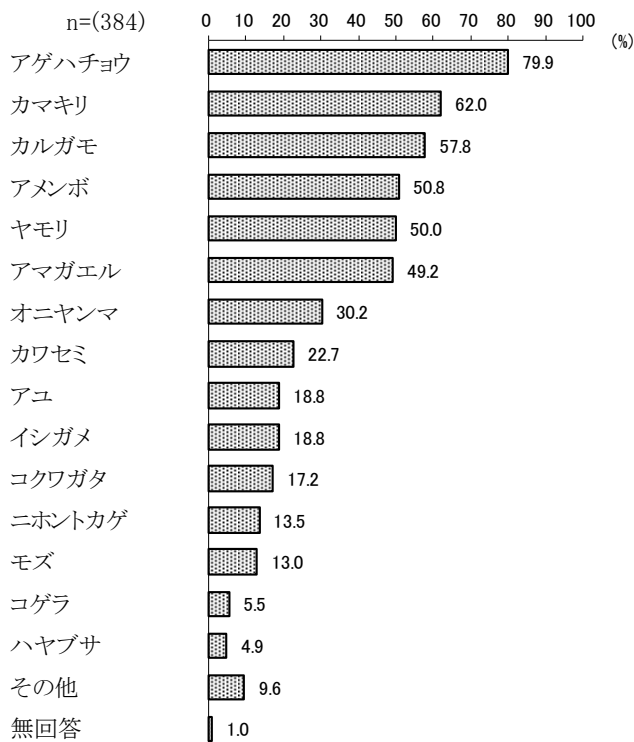
◆身近な自然を代表する生き物が新宿区にも生息していることの認知度は、「知らない」が6割台半ば近く、「知っている」が約3割となっています。

身近な自然を代表する生き物が新宿区にも生息していることの認知度は、「知らない」(63.4%)が6割台半ば近く、「知っている」(30.3%)が約3割となっています。



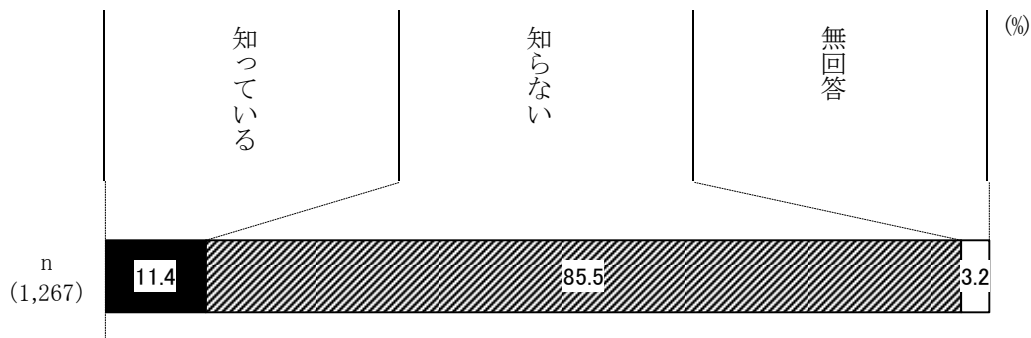
◆新宿区での生息を知っている生き物は、「アゲハチョウ」が8割弱で最も高く、「カマキリ」が6割強で続いています。

新宿区での生息を知っている生き物は、「アゲハチョウ」(79.9%)が8割弱で最も高くなっています。次いで「カマキリ」(62.0%)が6割強、「カルガモ」(57.8%)が5割台半ばを超えて続いています。



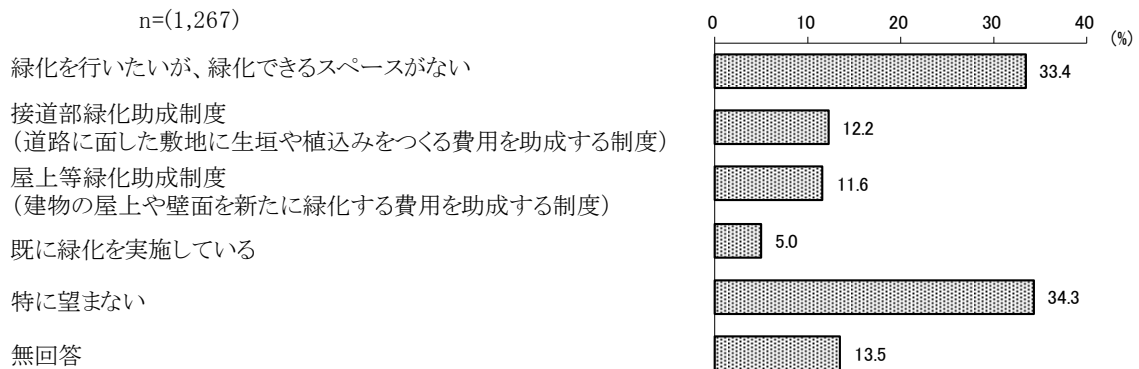
◆助成制度の認知度は、「知らない」が8割台半ば、「知っている」が1割強となっています。

助成制度の認知度は、「知らない」(85.5%)が8割台半ば、「知っている」(11.4%)が1割強となっています。



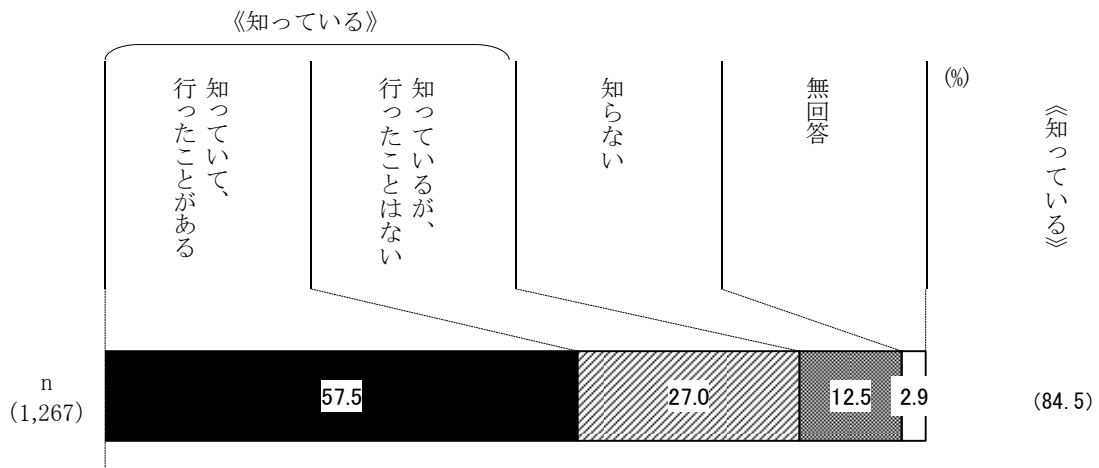
◆助成を受けてみたい制度は、「緑化を行いたいが、緑化できるスペースがない」が3割台半ば近くで最も高く、「接道部緑化助成制度(道路に面した敷地に生垣や植込みをつくる費用を助成する制度)」が1割強で続いています。

助成を受けてみたい制度は、「緑化を行いたいが、緑化できるスペースがない」(33.4%)が3割台半ば近くで最も高くなっています。次いで「接道部緑化助成制度(道路に面した敷地に生垣や植込みをつくる費用を助成する制度)」(12.2%)、「屋上等緑化助成制度(建物の屋上や壁面を新たに緑化する費用を助成する制度)」(11.6%)が1割強で続いています。



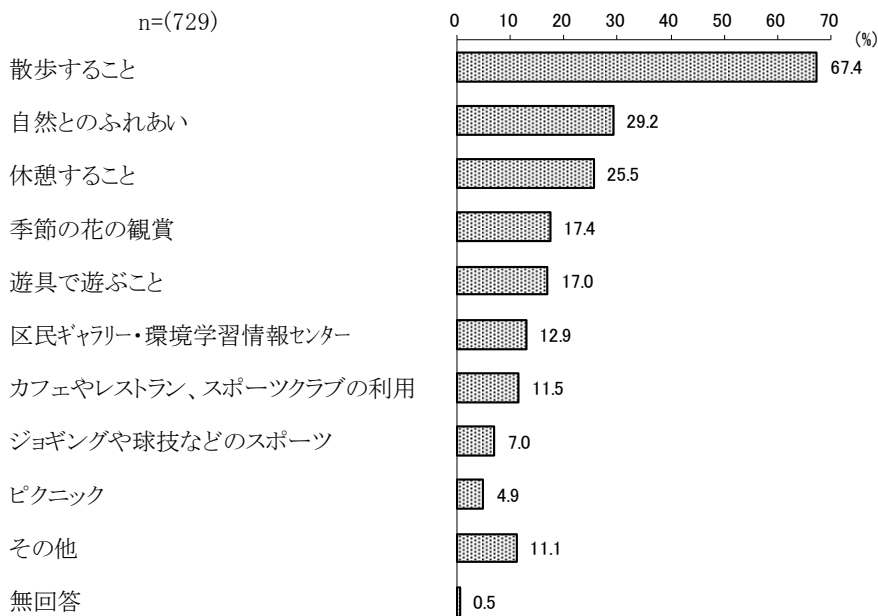
◆新宿中央公園の認知度は、「知っている、行ったことがある」と「知っているが、行ったことはない」をあわせた《知っている》が8割台半ば近くとなっています。

新宿中央公園の認知度は、「知っている、行ったことがある」(57.5%)と「知っているが、行ったことはない」(27.0%)をあわせた《知っている》(84.5%)が8割台半ば近くとなっています。一方、「知らない」(12.5%)は1割強となっています。



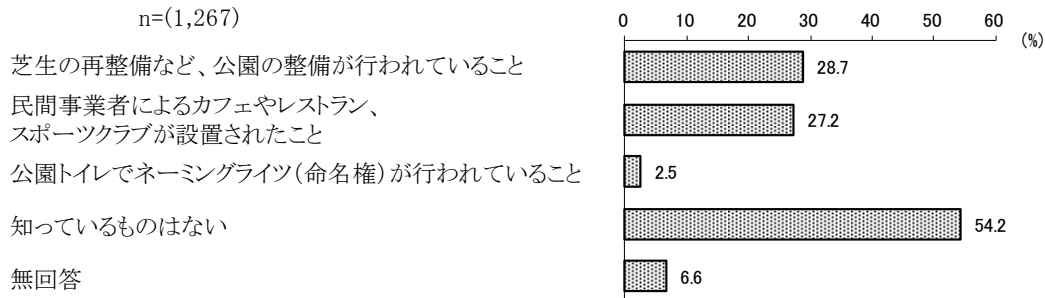
◆新宿中央公園へ行った目的は、「散歩すること」が6割台半ばを超えて最も高く、「自然とのふれあい」が3割弱で続いています。

新宿中央公園へ行った目的は、「散歩すること」(67.4%)が6割台半ばを超えて最も高くなっています。次いで「自然とのふれあい」(29.2%)が3割弱、「休憩すること」(25.5%)が2割台半ばで続いています。



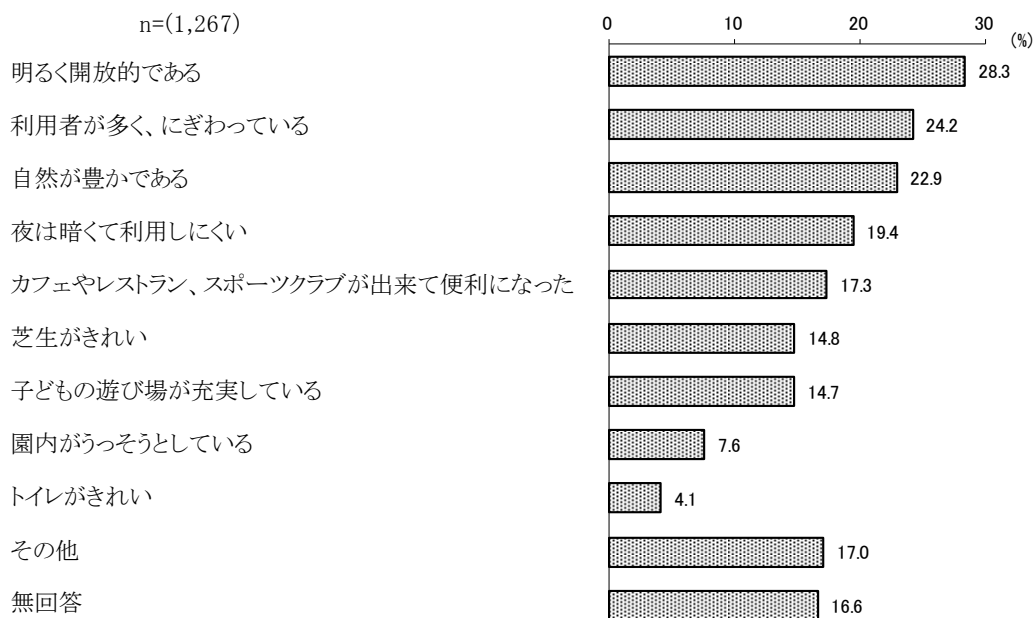
◆公園の魅力向上のための取組の認知度は、「芝生の再整備など、公園の整備が行われていること」が3割近くで最も高く、「民間事業者によるカフェやレストラン、スポーツクラブが設置されたこと」が2割台半ばを超えて続いています。

公園の魅力向上のための取組の認知度は、「芝生の再整備など、公園の整備が行われていること」(28.7%)が3割近くで最も高くなっています。次いで「民間事業者によるカフェやレストラン、スポーツクラブが設置されたこと」(27.2%)が2割台半ばを超えて続いています。



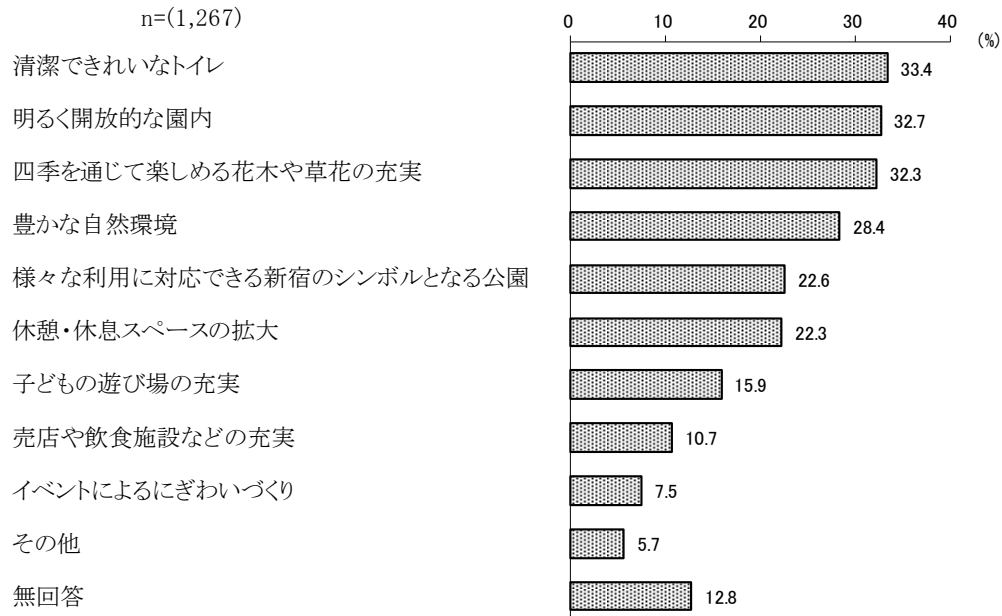
◆新宿中央公園の印象は、「明るく開放的である」が3割近くで最も高く、「利用者が多く、にぎわっている」が2割台半ば近くで続いています。

新宿中央公園の印象は、「明るく開放的である」(28.3%)が3割近くで最も高くなっています。次いで「利用者が多く、にぎわっている」(24.2%)が2割台半ば近く、「自然が豊かである」(22.9%)が2割強で続いています。



◆新宿中央公園に期待することは、「清潔できれいなトイレ」が3割台半ば近くで最も高く、「明るく開放的な園内」が3割強で続いています。

新宿中央公園に期待することは、「清潔できれいなトイレ」(33.4%)が3割台半ば近くで最も高くなっています。次いで「明るく開放的な園内」(32.7%)、「四季を通じて楽しめる花木や草花の充実」(32.3%)が3割強で続いています。



詳しい結果が載っている「令和3年度 新宿区区民意識調査」の報告書は、総合政策部区政情報課、区政情報センター、区立図書館で閲覧できます。

また、区のホームページ <http://www.city.shinjuku.lg.jp>からも全文を閲覧できます。

どうぞ、ご利用ください。

この印刷物は、業者委託により、700部印刷製本しています。その経費として1部あたり220円（税込み）がかかっています。ただし、編集時の職員人件費や配送費等は含んでいません。

令和3年度 新宿区区民意識調査 要約版

2022年（令和4年）1月発行

印刷物作成番号

2021-20-2106

【発行】 新宿区 総合政策部 区政情報課 広聴係
〒160-8484 新宿区歌舞伎町1丁目4番1号
☎ 03 (5273) 4065 (直通)

【実施】 株式会社 都市計画21
〒103-0013 中央区日本橋人形町1丁目6番10号
☎ 03 (5623) 6371

- 新宿区は、環境への負荷を少なくし、未来の環境を創造するまちづくりを推進しています。